

認定社会福祉士アンケート調査 調査結果

調査期間：2024 年 8 月 1 日から同年 8 月 31 日まで

対象数：1,246 件（認定社会福祉士 826 名、効力停止期間中 420 名）回答率 25%

回答数：313 件

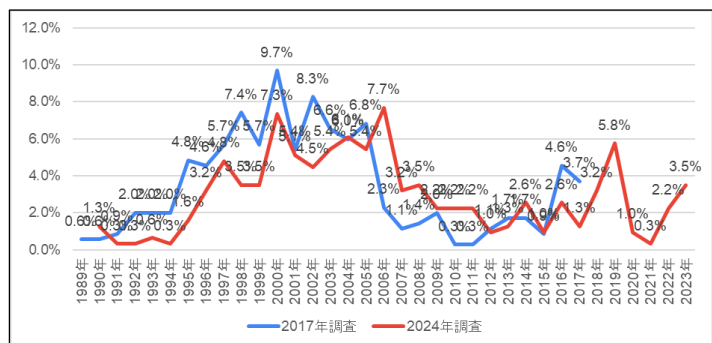
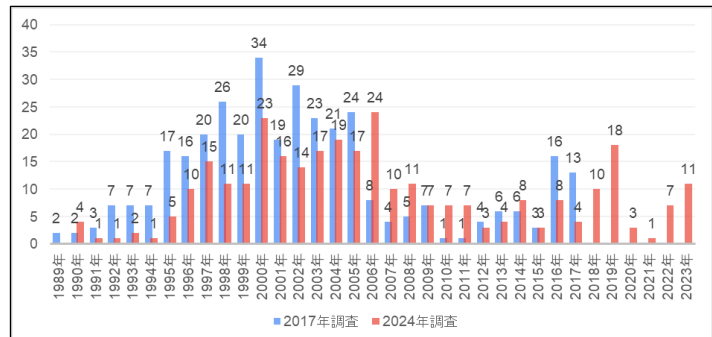
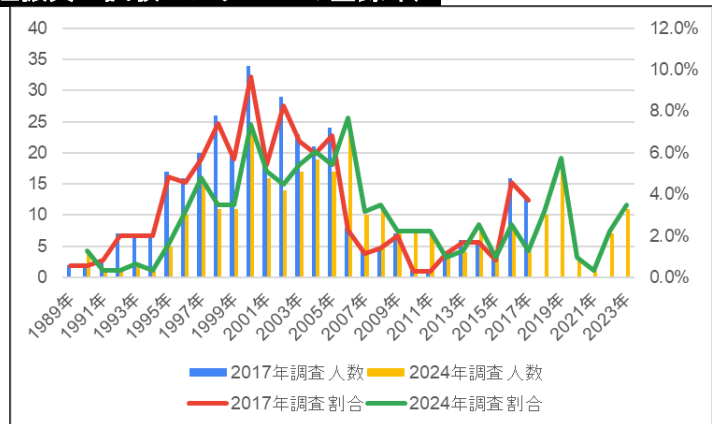
第 I 章 認定社会福祉士の基本属性

調査項目の大項目 I については、認定社会福祉士の個人の属性を問う設問であり、各回答者のそれぞれの客観的な現状を把握するものです。これらの属性データは基礎データとして、以下の章の設問とのクロス集計をすることにより、認定社会福祉士の実態の特徴や傾向を確認しました。

I. 基本属性について

①社会福祉士の資格登録の年（社会福祉振興・試験センターへの登録年）

	2017 年調査		2024 年調査	
	人数	割合	人数	割合
1989 年	2	0.6%		
1990 年	2	0.6%	4	1.3%
1991 年	3	0.9%	1	0.3%
1992 年	7	2.0%	1	0.3%
1993 年	7	2.0%	2	0.6%
1994 年	7	2.0%	1	0.3%
1995 年	17	4.8%	5	1.6%
1996 年	16	4.6%	10	3.2%
1997 年	20	5.7%	15	4.8%
1998 年	26	7.4%	11	3.5%
1999 年	20	5.7%	11	3.5%
2000 年	34	9.7%	23	7.3%
2001 年	19	5.4%	16	5.1%
2002 年	29	8.3%	14	4.5%
2003 年	23	6.6%	17	5.4%
2004 年	21	6.0%	19	6.1%
2005 年	24	6.8%	17	5.4%
2006 年	8	2.3%	24	7.7%
2007 年	4	1.1%	10	3.2%
2008 年	5	1.4%	11	3.5%
2009 年	7	2.0%	7	2.2%
2010 年	1	0.3%	7	2.2%
2011 年	1	0.3%	7	2.2%
2012 年	4	1.1%	3	1.0%
2013 年	6	1.7%	4	1.3%
2014 年	6	1.7%	8	2.6%
2015 年	3	0.9%	3	1.0%
2016 年	16	4.6%	8	2.6%
2017 年	13	3.7%	4	1.3%
2018 年			10	3.2%
2019 年			18	5.8%
2020 年			3	1.0%
2021 年			1	0.3%
2022 年			7	2.2%
2023 年			11	3.5%
全体 n.	351	100.0%	313	100.0%



※認定社会福祉士取得には、相談援助実務経験 5 年以上が要件となっていることから、2019～2023 年の登録者数は明らかに誤りと思われる回答があったが、修正はせずそのままを表記している。

②年齢

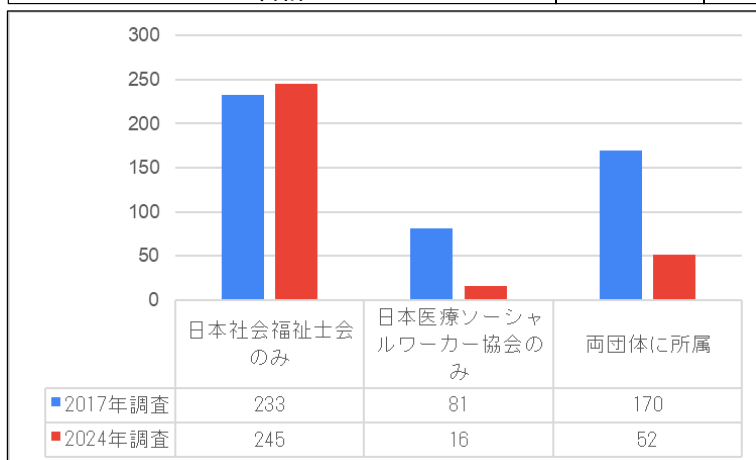
<結果>

7年前の調査時と年齢分布が移動している状況が読み取れる。40歳未満の若い世代の認定社会福祉士の取得への取り組みが少ない状況である。

	2017年調査		2024年調査	
年齢別	件数	比率	件数	比率
25～29歳代	0	0.0%	0	0.0%
30～34歳代	5	1.0%	3	1.0%
35～39歳代	51	10.5%	6	1.9%
40～44歳代	109	22.5%	38	12.1%
45～49歳代	87	18.0%	53	16.9%
50～54歳代	84	17.4%	66	21.1%
55～59歳代	70	14.5%	51	16.3%
60～64歳代	46	9.5%	52	16.6%
65～69歳代	22	4.5%	21	6.7%
70～74歳代	6	1.2%	19	6.1%
75歳以上	4	0.8%	4	1.3%
合計	484	100.0%	313	100.0%

③所属職能団体

	2017年調査		2024年調査	
項目	件数	比率	件数	比率
日本社会福祉士会のみ	233	48.1%	245	78.3%
日本医療ソーシャルワーカー協会のみ	81	16.7%	16	5.1%
両団体に所属	170	35.1%	52	16.6%
合計	484	100.0%	313	100.0%

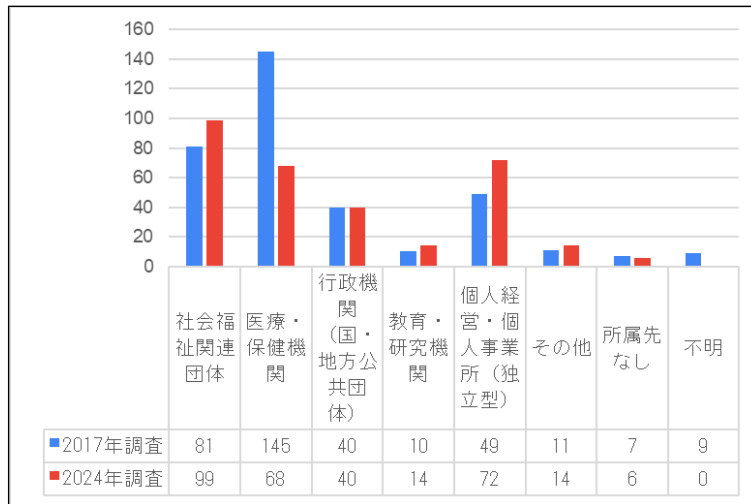


④所属先の主たる経営・運営主体（社協・社福は1）

<結果>

2017年調査時よりも、「医療・保健機関」の比率が半減している。その反面、「個人経営・個人事業所（独立型）」の比率が倍近い増加となっている。

	2017年調査		2024年調査	
項目	件数	比率	件数	比率
社会福祉関連団体	81	23.0%	99	31.6%
医療・保健機関	145	41.2%	68	21.7%
行政機関（国・地方公共団体）	40	11.4%	40	12.8%
教育・研究機関	10	2.8%	14	4.5%
個人経営・個人事業所（独立型）	49	13.9%	72	23.0%
その他	11	3.1%	14	4.5%
所属先なし	7	2.0%	6	1.9%
不明	29	2.6%	0	0.0%
合計	352	100.0%	313	100.0%



⑤上記④の所属先での役

<結果>

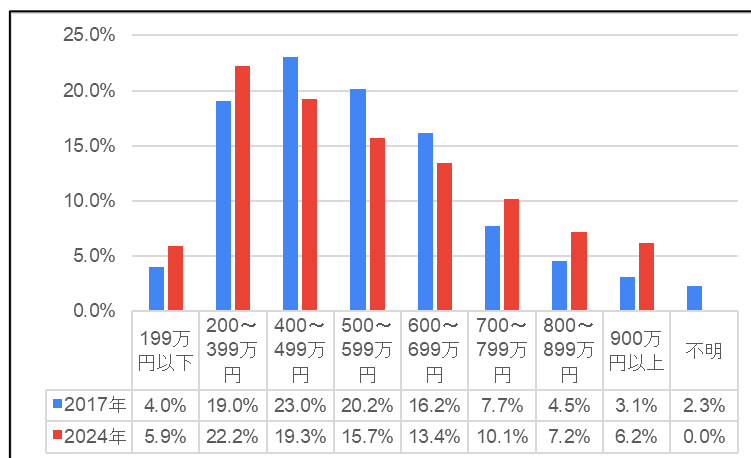
所属先での役職として、2017 年調査との比較では、「個人経営・個人事業所（独立型）」の増加が「経営者（代表・役員・独立型）」の割合の上昇に影響を与えている。

項目	2017年調査		2024年調査	
	件数	比率	件数	比率
経営者（代表・役員・独立型）	65	18.5%	85	27.2%
管理職（事業所や部門の長・長の代理）	122	34.7%	101	32.3%
リーダー的な役職	68	19.3%	59	18.8%
その他	32	9.1%	0	0.0%
特になし	56	15.9%	68	21.7%
不明	9	2.6%	0	0.0%
合計	352	100.0%	313	100.0%

⑥前年の年収（収入ベース、申告額）

<結果>

2017 年調査との比較では、年収 199 万円以下、年収 200～399 万円、年収 700 万円以上の割合が高い。その反面、400 万円～699 万円の層は低下している。

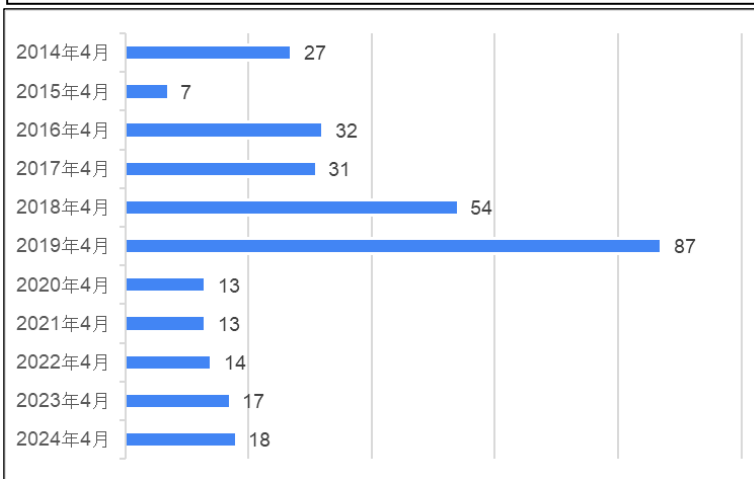


所属種別	199万円以下	200～399万円	400～499万円	500～599万円	600～699万円	700～799万円	800～899万円	900万円以上	不明	合計
社会福祉関連団体	4	18	23	15	18	8	9	4	0	99
医療・保健機関	0	8	14	15	11	11	3	2	4	68
行政機関（国・地方公共団体）	0	12	3	6	5	8	4	2	0	40
教育・研究機関	0	5	2	2	1	0	0	4	0	14
個人経営・個人事業所（独立型）	7	22	15	8	5	3	5	6	2	73
その他	3	2	2	1	1	0	0	1	1	11
所属先なし	5	1	0	1	0	1	1	0	0	9
所属種別	199万円以下	200～399万円	400～499万円	500～599万円	600～699万円	700～799万円	800～899万円	900万円以上	不明	合計
社会福祉関連団体	4.0%	18.2%	23.2%	15.2%	18.2%	8.1%	9.1%	4.0%	0.0%	100.0%
医療・保健機関	0.0%	11.8%	20.6%	22.1%	16.2%	16.2%	4.4%	2.9%	5.9%	100.0%
行政機関（国・地方公共団体）	0.0%	30.0%	7.5%	15.0%	12.5%	20.0%	10.0%	5.0%	0.0%	100.0%
教育・研究機関	0.0%	35.7%	14.3%	14.3%	7.1%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	100.0%
個人経営・個人事業所（独立型）	9.6%	30.1%	20.5%	11.0%	6.8%	4.1%	6.8%	8.2%	2.7%	100.0%
その他	27.3%	18.2%	18.2%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%	100.0%
所属先なし	55.6%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%

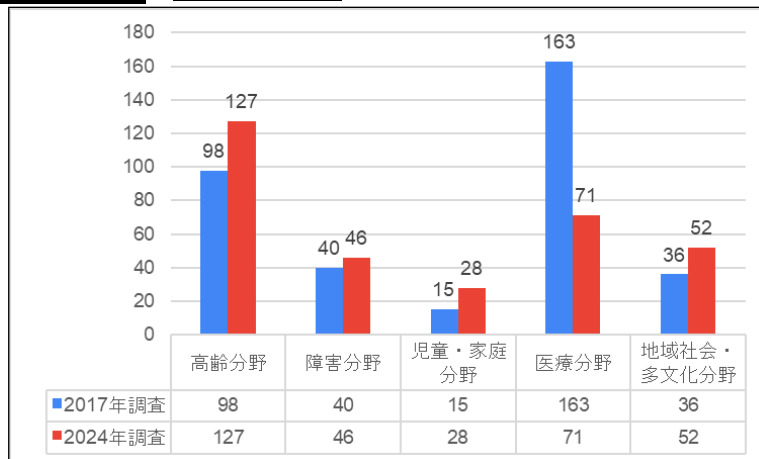
⑦認定社会福祉士の登録の年

＜結果＞

2017 年度特別研修修了者が登録を終えたであろう年から登録数が減少している。



⑧認定の分野 * 複数回答可

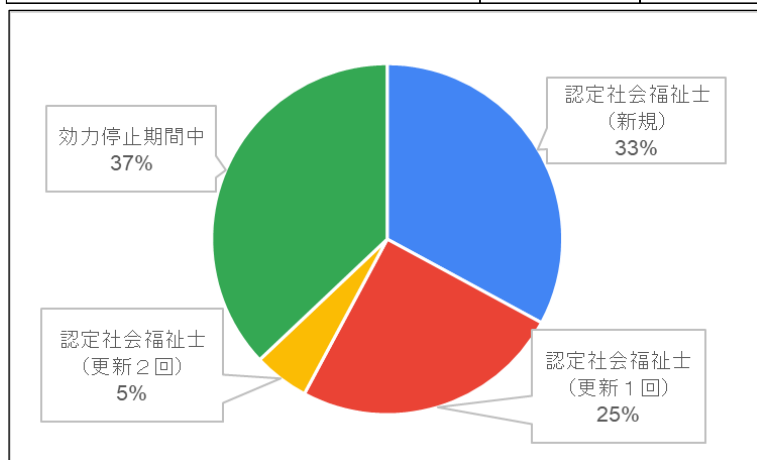


⑨現在の認定社会福祉士の登録状況

＜結果＞

2024 年調査では、効力停止期間中が 116 人の 37.1%と高い割合となっている。更新を重ねる毎に人数が減少していることも分かる。

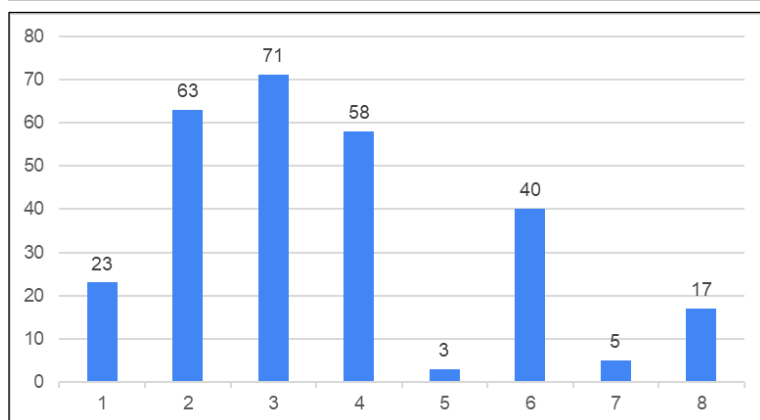
登録状況	件数	比率
認定社会福祉士（新規）	103	32.9%
認定社会福祉士（更新 1 回）	78	24.9%
認定社会福祉士（更新 2 回）	16	5.1%
効力停止期間中	116	37.1%
合計	313	100.0%



⑩更新をしていない理由

<結果>

2024 年調査では、研修単位とスーパービジョンに関する更新要件を満たせていないことが、更新していない理由の上位となっている。



1.更新要件(実務経験)を満たせないため	2.更新要件(研修単位・研修受講)を満たせないため
3.更新要件(研修単位のスーパービジョン)を満たせないため	4.更新手続きが煩雑なため
5.更新申請をするが合格しないため	6.期待した効果が得られないため
7.他の資格取得を目指しているため	8.その他()

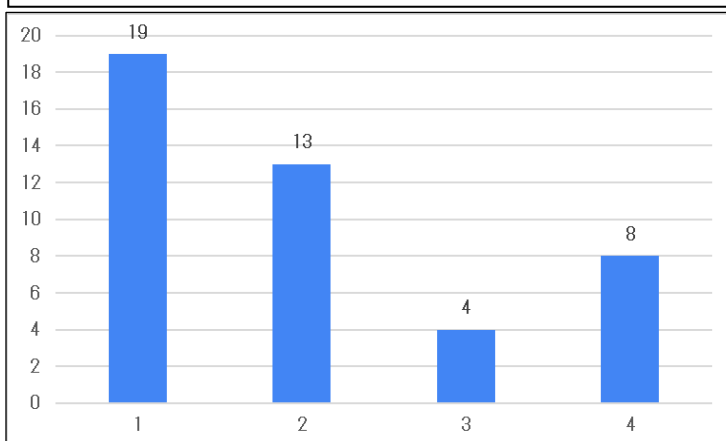
8. その他
1 今年申請予定
2 今年更新予定
3 今年更新予定
4 今年度更新申請予定
5 今回申請する見込み
6 更新準備中
7 更新時期が決まっているため
8 本業に加えて職能団体の活動が多忙で、更新の要件を満たせない
9 社会福祉学博士学位を取得したので、研究に進むかどうか、迷っている
10 年齢的なこと
11 療養していたため

12	コロナの影響もあり、「定められた実績」がクリアできなかったため
13	コロナ禍、現場優先で余裕が無かった
14	制度の在り方に強い疑問を感じていて更新をしないことに決めたから
15	社会の認知度ゼロ
16	認証された研修の受講機会が少な
17	現在、別の資格で勤務しているため

⑪「１．更新要件（実務経験）を満たせないため」の理由

<結果>

2024 年調査での「１．更新要件（実務経験）を満たせないため」の理由としては、職種・職位等の人事異動により、「１．ソーシャルワーク実践ができる環境ではなくなったため」が多い。



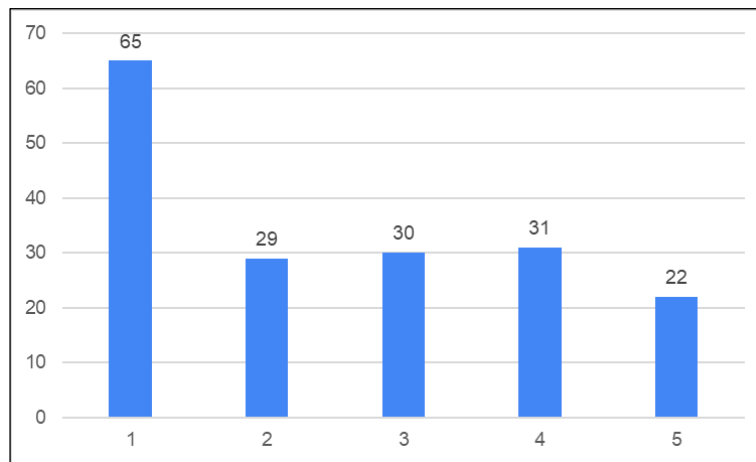
1. ソーシャルワーク実践ができる環境ではなくなったため	2. 認定された時と分野が変更となるため
3. 実務経験証明書の発行をしてもらえないため	4. その他()

4. その他
1 教育機関の所属。後見等の実務が行えなかったため
2 学会発表や研修講師等の実務
3 講師等満たすためには下準備に時間がかかりすぎる
4 申請時期までに条件を整えることが出来なかった
5 職能団体の事務のためソーシャルワーク実践と認められないから
6 妊娠出産で途中でS Vが中断し、諦めました
7 療養していたため
8 資格が必要ないため

⑫「２．更新要件（研修単位・研修受講）を満たせないため」・「３．更新要件（研修単位のスーパービジョン）を満たせないため」の理由

<結果>

2024 年調査での「２．更新要件（研修単位・研修受講）を満たせないため」・「３．更新要件（研修単位のスーパービジョン）を満たせないため」の理由としては、コロナ感染症の関係もあり、研修・スーパービジョン等、「受講するための時間確保が難しいため」の回答が多い。



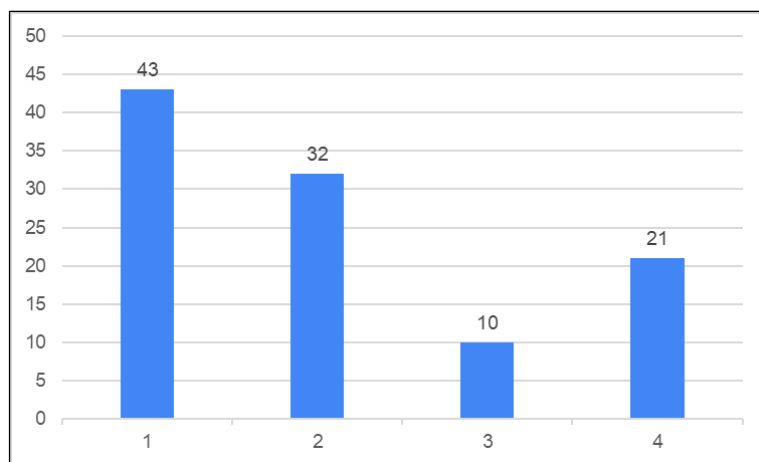
1. 受講するための時間確保が難しいため	2. 受講したい認証研修がないため
3. スーパービジョンの契約が成立しないため	4. 受講するためにかかる費用負担が大きい
5. その他 ()	ため

5. その他	
1	コロナで医療分野の実践環境が変化した
2	コロナで研修実施されなかった事
3	経過措置はあったがその間に定年退職をした為履修証明が発行される研修が不足し単位とならなかった
4	コロナ禍だったので、研修受講が難しかった
5	コロナ禍で対面ではなく、リモートで行いたかったが、対応してくれるスーパーバイザーが見つからなかった
6	研修運営や講師などの機会はあるが、それらが単位認定の対象にならないため
7	SV の手続きが複雑かつ煩雑
8	バイザーを複数おこない自身の SV していなかったので SV 行い、次回更新予定
9	更新期日に SV の終了が間に合わなかった
10	SV を実際に職場で行っていても、職場内の関係で行っている。契約関係ではないため
11	学会発表する場などを見つけることができなかったため（仕事多忙）
12	業務上必要ない
13	ベネフィットと労力を考えた時に更新する意味を見出せなかったから
14	最初更新するつもりがなく、研修を積極的に受けていなかった
15	更新研修が年 1 回で受講できない状況だったため
16	今後、集合方式に限定されると尚一層受講困難となる
17	詳細が分からなかった
18	更新したいが、要件が難しくて分からない
19	情報保障確保が厳しい
20	療養していたため
21	当時の上司から無視されていたこと。認定をとっても、診療報酬に直結しないので、何にもならないと言われていた
22	年齢的なこと
23	年齢的なことも考えて負担を減らしたい

⑬「4. 更新手続きが煩雑なため」はどのような点が煩雑か

<結果>

2024 年調査では、更新の手続き時の提出書類の多さや重複した内容の記載があることが煩雑という意見が多い。また、自由記載では、必要研修の単位記載も複雑でわかりづらいとの意見もある。



1. 提出書類が多いため	2. 認定申請の際に記載した内容と重複した内容の記載を求められるため
3. 書類の提出方法が郵送のため	4. その他（ ）
4. その他	
1	制度が煩雑で、手続きや手間がかかりすぎる
2	更新するための条件がわかりづらいため
3	説明を読んでも要件が分からず困っています
4	条件クリアがわかりづらい
5	研修履修証明の要件や記載の仕方がよく分からない
6	研修単位、受講など全般が複雑怪奇で理解できない
7	自分の場合どの書類（研修等）が足りないのか分かりにくい
8	様々な研修に参加しても、該当する研修としてよいのか分かりにくい
9	ポイント換算が煩雑と感じてしまうため
10	どのようにポイントを単位計算にしていくのか、誰に聞けば良いのか分からない
11	日本医療社会事業協会の研修、認定との両立、手続きが分からない
12	行政業務で多分野を経験するため1分野を深めることが困難
13	数年にわたり書類を保管する必要がある
14	実践の証明が難しい
15	やる気が無くなると更新手続きは非常に面倒に思える
16	コロナ感染症が流行し、子育てと仕事の両立が精一杯だった
17	更新時期の頃に、職場内でのハラスメントに心身ともにボロボロで診療内科受診していた
18	更新にどんな書類が必要かをそもそも調べていなかった
19	実務に効果があるか疑問に思うため
20	意味がわからない
21	よく分からない

第Ⅱ章認定社会福祉士の認定（資格）に対する期待感の変化

調査項目の大項目Ⅱについては、現在の認定社会福祉士が、認定前にどのようなことに期待していたか、また、その期待は認定後にどの程度満たされたのかについて問い、さらに、認定後、期待の充実度を実感した現在からみて、自分を含めた認定社会福祉士全体に対し、今後（将来に向けて）、どのようになっていくことを期待するのか、というように、過去、現在、未来への期待感の変化をとらえようとしてしました。

Ⅱ. 認定社会福祉士の認定（以下、「認定」という。）に対する「期待」

① 認定前の期待

<結果>

2024 年調査では、第 1 位から 3 位全て、内的能力向上期待を重視していることが分かった。2017 年調査との違いとしては、実質的利益期待が倍以上の件数として増えている。

(汎用)

1. クライアント等からの評価が高まること	2. 社会・地域・他機関からの評価が高まること	3. 職場内での評価が高まること	4. 倫理意識が高まること
5. 知識が豊富になること	6. 技術が高まること	7. 組織又は人の調整力が高まること	8. 人脈又はネットワークが密になること
9. リーダーシップが発揮できること	10. 給与・収入が増えること	11. 仕事の依頼が増えること	12. より専門的な業務を任されること
13. その他 ()	14. とくに何も期待していなかった		

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1 位	30	92	31	49	65	62	19	25	14	15	12	32	19	25
2 位	32	49	46	48	58	56	21	33	22	19	14	26	1	4
3 位	32	36	38	43	46	36	26	19	25	19	28	30	7	17
4 位	21	24	18	30	36	4	25	39	26	21	20	17	12	13
5 位	32	28	30	23	20	22	15	38	24	24	23	31	13	12

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1 位	150	460	155	245	325	310	95	125	70	75	60	160	95	125
2 位	128	196	184	192	232	224	84	132	88	76	56	104	4	16
3 位	96	108	114	129	138	108	78	57	75	57	84	90	21	51
4 位	42	48	36	60	72	8	50	78	52	42	40	34	24	26
5 位	32	28	30	23	20	22	15	38	24	24	23	31	13	12
合計	448	840	519	649	787	672	322	430	309	274	263	419	157	230
順位	6	1	5	4	2	3	9	7	10	11	12	8	14	13
	1807			2108			1061			956				
	外的評価期待			内的能力向上期待			対外的能力発揮期待			実質的利益期待				

①ー1. 上記①で 13「その他」を選択した場合、具体的な内容を記載してください	
1	職能団体の中で、役職につけると思った
2	資格取得の際のインセンティブ（子ども家庭ソーシャルワーカーの研修免除等）
3	子ども家庭ソーシャルワーカーと同等認定か、資格試験免除規定
4	資格手当がつく評価されない
5	認定あれば診療報酬算定に関連して、病院の収益につながることを期待していたから
6	賃金アップ
7	給与に関係ない
8	自分自身の専門家としてのアイデンティティ
9	自分自身へのステータス
10	独立型社会福祉士や成年後見受任などなどのため
11	自己満足
12	自己研鑽のため認定を目指した。社会的に評価されれば、それはそれで構わないと思っていた
13	継続した成長が望めると思っていた
14	業務に役立つから
15	自己肯定感のアップにつながる
16	仕事を続けていくうえでの必要不可欠な義務として取得
17	より広い視野で物事を見ることが出来るようになる事を期待した
18	認定を目指すソーシャルワーカーが増えること。そのモデルになること
19	それまでの実践をまとめ、次のステップアップに進んでいく（自己研鑽）
20	自分自身のスキルの確認。認定で実施される特別研修等に自身が向かえるか（耐えられるか）を確認したかった
21	基礎研修や実務を通して学び実践したことの成果を確認するため
22	それまで積み重ねてきた勉強を形にしたかった
23	自分自身の能力、経験値の向上を図る目的があった

24	社会福祉士を取り巻く環境が大きく変わっていた
25	自分がソーシャルワーカーとして生きてきた証として認定社会福祉士を取得したかった
26	スーパーバイザーとして必須ではないが、必要な資格と考えていたため
27	「認定社会福祉士が所属している」ということで、社会において事業所の評価が上がる
28	「認定社会福祉士が所属している」ことで、組織の支援・サービスの質の担保を表明できる
29	組織内においてソーシャルワークの専門性を可視化することに貢献できる（役割を担う）
30	認定社会福祉士が部門長になり、SVを担当している。支援の質が担保されている
31	職場内外でSVrをしたいと思い、認定社会福祉士の更新をしてsvr研修を受講したかった
32	看護師や医師と違って、認定をとっても評価される環境にない事はわかっているので、自己研鑽と割り切っているから
33	そもそも、社会福祉士の社会的評価があまりにも低すぎると感じている。我々社会福祉に従事する者として、国の定めた制度（障害福祉制度）に基づいた事業をしており、国が定めた国家資格（社会福祉士、精神保健福祉士）を取得し、社会福祉士の当然の努力義務である認定社会福祉士を目指すことは、社会福祉士としてごく当たり前のことであると考えている。国が認定社会福祉士を増やすという目標を示していたため、経営者である自分が認定社会福祉士を取得し、高度な福祉倫理に基づいて事業経営を行っていくことについて、国は当たり前に評価を高めてくれるはずだと信じていた
34	社会福祉士としての認知度が高くなっていた
35	世間や同職種の認知度が低すぎる
36	社会福祉士自体の専門性が認知されていないのに、認定を取得しても変わらない
37	行政からの仕事の依頼が少ない状態です
38	勤務をしていたら職場内の人間関係に気を使わなければいけないが、今は1人で仕事をしているため、面倒な人間関係はない
39	クライアントには関係ないし、他も自己管理の問題
40	このアンケートの方法が分かりにくい
41	質問内容がわかりにくく回答しようがない

② 認定前に期待していた項目について、現時点で、期待していた状況に近づいていますか？

<結果>

2024 年調査では、現時点で、期待していた状況に近づいているかとの設問に対して、「社会・地域・他機関からの評価が高まること」が期待していた状況に近づいていないが多い。また、「倫理意識が高まること」「知識が豊富になること」「技術が高まること」は期待に近づいている。

第1位		0	1	2	3	4	5
クライアント等からの評価が高まること	2017年	9	3	1	4	0	1
	2024年	7	4	7	6	3	3
社会・地域・他機関からの評価が高まること	2017年	33	25	13	21	4	2
	2024年	25	17	13	12	12	13
職場内での評価が高まること	2017年	11	4	4	1	1	1
	2024年	16	4	3	3	1	4
倫理意識が高まること	2017年	2	2	3	7	9	3
	2024年	3	5	7	9	12	13
知識が豊富になること	2017年	2	6	8	14	12	4
	2024年	6	7	9	14	18	11
技術が高まること	2017年	1	6	12	11	7	2
	2024年	3	9	9	15	15	11
組織又は人の調整力が高まること	2017年	1	2	3	1	2	0
	2024年	3	4	4	1	4	3
人脈又はネットワークが密になること	2017年	0	2	2	1	1	0
	2024年	7	3	3	3	4	5
リーダーシップが発揮できること	2017年	2	3	0	2	1	0
	2024年	3	2	4	1	2	2
給与・収入が増えること	2017年	2	0	0	0	0	0
	2024年	6	0	2	0	1	6
仕事の依頼が増えること	2017年	0	0	1	1	0	0
	2024年	5	1	1	2	0	3
より専門的な業務を任されること	2017年	9	2	2	1	1	1
	2024年	9	5	6	2	4	6
その他()	2017年	5	1	3	1	4	2
	2024年	5	2	3	3	2	4
とくに何も期待していなかった	2017年	31	0	0	0	0	0
	2024年	12	1	2	4	2	4

第2位		0	1	2	3	4	5
クライアント等からの評価が高まること	2017年	10	2	2	3	0	0
	2024年	9	6	5	10	1	1
社会・地域・他機関からの評価が高まること	2017年	14	6	10	4	2	2
	2024年	13	6	13	8	4	5
職場内での評価が高まること	2017年	14	8	5	3	0	0
	2024年	16	7	8	4	5	6
倫理意識が高まること	2017年	5	4	3	14	13	2
	2024年	3	9	12	9	7	8
知識が豊富になること	2017年	2	6	13	12	9	2
	2024年	3	11	11	23	7	3
技術が高まること	2017年	2	6	6	19	13	4
	2024年	6	9	13	16	9	3
組織又は人の調整力が高まること	2017年	5	2	3	7	1	1
	2024年	2	5	7	4	2	1
人脈又はネットワークが密になること	2017年	5	2	2	1	2	0
	2024年	4	5	9	10	2	3
リーダーシップが発揮できること	2017年	2	3	0	3	1	0
	2024年	3	4	7	4	2	2
給与・収入が増えること	2017年	6	0	0	0	0	0
	2024年	7	5	2	1	2	2
仕事の依頼が増えること	2017年	3	1	1	1	0	0
	2024年	2	3	3	2	2	2
より専門的な業務を任されること	2017年	5	5	5	3	3	0
	2024年	9	4	5	4	2	2
その他()	2017年	59	0	0	0	0	0
	2024年	1	0	0	0	0	0
とくに何も期待していなかった	2017年	0	0	0	0	0	0
	2024年	1	0	1	1	1	0

第3位		0	1	2	3	4	5
クライアント等からの評価が高まること	2017年	11	9	2	1	1	0
	2024年	7	9	5	3	3	5
社会・地域・他機関からの評価が高まること	2017年	8	11	5	5	0	2
	2024年	8	5	12	7	2	2
職場内での評価が高まること	2017年	3	8	3	8	2	1
	2024年	12	5	9	8	3	1
倫理意識が高まること	2017年	0	4	5	8	13	3
	2024年	5	6	7	12	8	5
知識が豊富になること	2017年	2	5	3	11	7	2
	2024年	10	7	9	11	6	3
技術が高まること	2017年	9	9	7	13	4	1
	2024年	5	3	8	12	8	0
組織又は人の調整力が高まること	2017年	2	6	4	4	1	2
	2024年	5	2	5	6	4	3
人脈又はネットワークが密になること	2017年	2	4	3	6	2	2
	2024年	2	6	2	5	3	1
リーダーシップが発揮できること	2017年	5	4	4	4	1	0
	2024年	5	7	3	4	4	2
給与・収入が増えること	2017年	6	1	0	1	0	0
	2024年	9	2	1	5	0	2
仕事の依頼が増えること	2017年	2	1	0	2	1	0
	2024年	4	7	8	4	1	4
より専門的な業務を任されること	2017年	6	1	2	2	1	0
	2024年	11	5	2	7	3	2
その他()	2017年	1	0	0	0	1	0
	2024年	1	4	0	2	0	0
とくに何も期待していなかった	2017年	0	0	0	0	0	0
	2024年	3	8	3	2	0	1

③ 認定社会福祉士全体の今後（将来）についての期待

＜結果＞

今後（将来）についての期待として一番多いのは、「社会・地域・他機関からの評価が高まること」であった。続いて「職場内での評価が高まること」「倫理意識が高まること」が続いている。

1. クライアント等からの評価が高まること	2. 社会・地域・他機関からの評価が高まること	3. 職場内での評価が高まること	4. 倫理意識が高まること
5. 知識が豊富になること	6. 技術が高まること	7. 組織又は人の調整力が高まること	8. 人脈又はネットワークが密になること
9. リーダーシップが発揮できること	10. 給与・収入が増えること	11. 仕事の依頼が増えること	12. より専門的な業務を任されること
13. その他（ ）	14. とくに何も期待していなかった		

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1 位	43	130	50	59	39	48	29	32	30	50	31	43
2 位	42	52	63	32	35	37	24	32	30	38	36	34
3 位	42	27	43	36	39	30	14	24	19	32	25	35
4 位	22	25	17	25	19	36	27	26	17	32	16	26
5 位	27	16	18	25	21	26	26	38	23	33	21	41

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1 位	215	650	250	295	195	240	145	160	150	250	155	215	0	0
2 位	168	208	252	128	140	148	96	128	120	152	144	136	0	0
3 位	126	81	129	108	117	90	42	72	57	96	75	105	0	0
4 位	44	50	34	50	38	72	54	52	34	64	32	52	0	0
5 位	27	16	18	25	21	26	26	38	23	33	21	41	0	0
合計	580	1005	683	606	511	576	363	450	384	595	427	549	0	0
順位	5	1	2	3	8	6	12	9	11	4	10	7		
	2268			1693			1197			1571				
	外的評価期待			内的能力向上期待			対外的能力発揮期待			実質的利益期待				

第三章認定社会福祉士の「資質」・「能力」の自己評価と「役割」

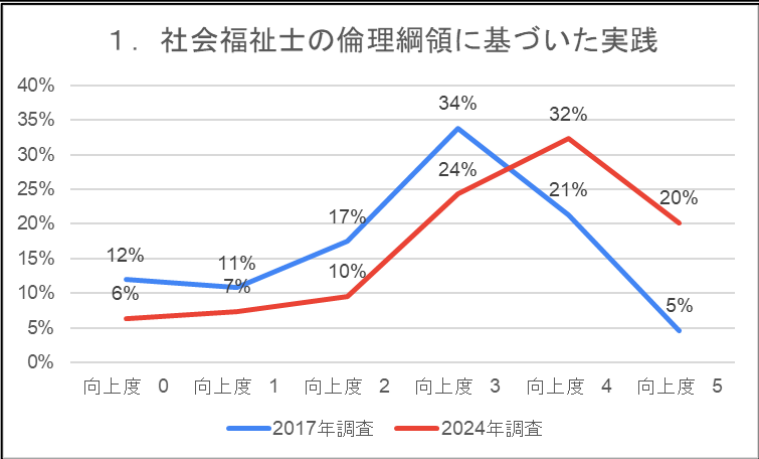
調査項目の大項目Ⅲについては、①の設問では、認定社会福祉士の「資質」や「能力」が、認定前と現時点とではどの程度向上したと感じているかの自己評価について、②の設問では、認定社会福祉士が担うべきとされている「役割」について、現時点でその「役割」を担っているか、について確認しました。

Ⅲ. 認定社会福祉士が有するべき「資質」や「能力」、また、認定社会福祉士が担うべき「役割」について。

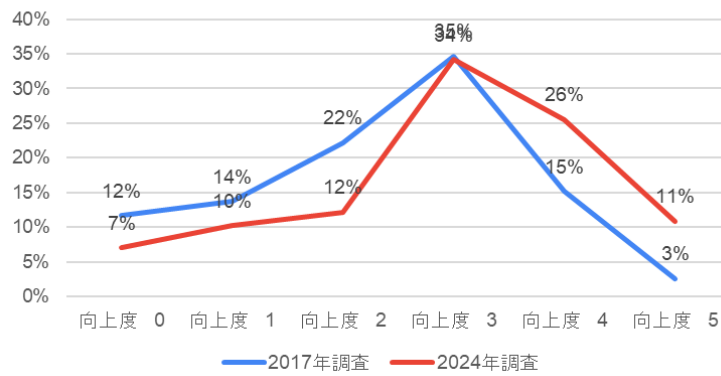
① 認定社会福祉士が有するものとされている「資質」や「能力」について、認定を受ける前と現時点とを比較して、どの程度向上したか。

＜結果＞

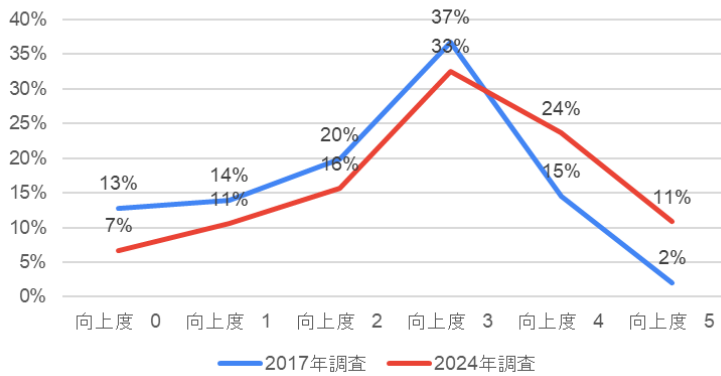
2017 年調査時と比較したところ、全体的に「資質」や「能力」、また、認定社会福祉士が担うべき「役割」について向上したと感じている者の割合が高くなった。



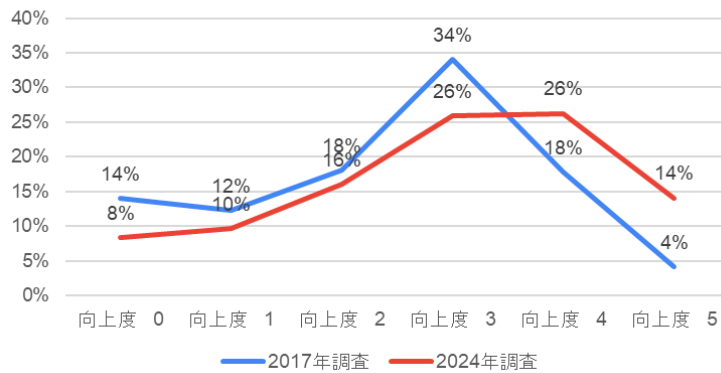
2. 高度な専門知識を用いた実践



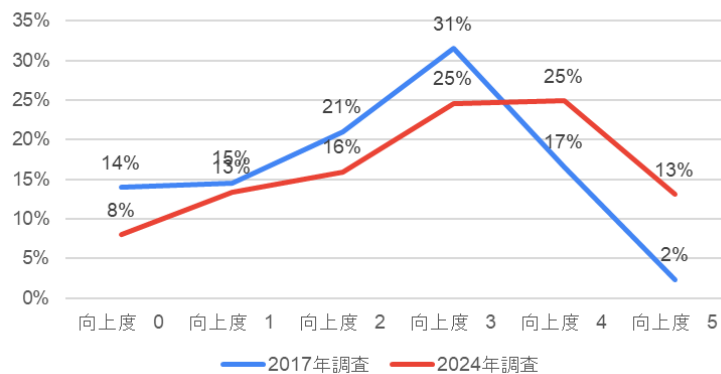
3. 熟練した技術を用いた実践



4. 他職種と連携した実践



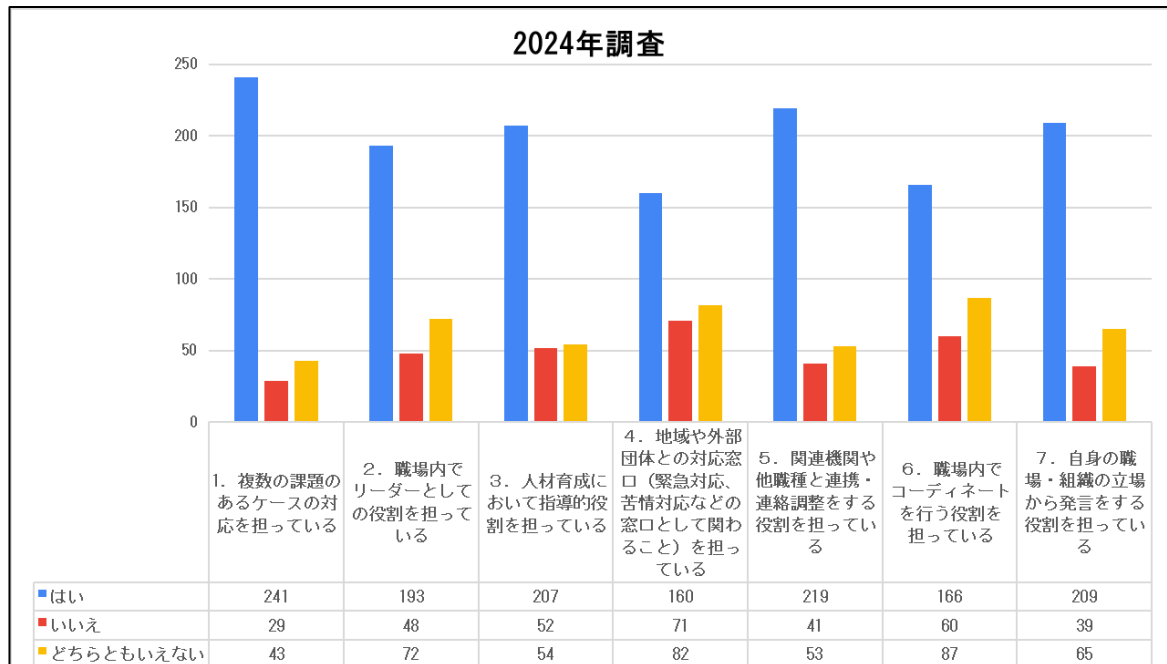
5. 地域福祉の増進に寄与する実践



② 認定社会福祉士が担う「役割」について、現在、その「役割」を担っているか。

<結果>

2024 年調査での「役割」を担っているかの各質問項目内で「はい」と返答した割合は、「いいえ」「どちらともいえない」を上回っている。しかし、2017 年調査と比較すると、「複数の課題のあるケースの対応を担っている」以外は、「いいえ」と答えた割合が高くなっている。



		いいえ		どちらともいえない		はい	
複数の課題のあるケースの対応を担っている	2017年	30	8.65%	50	14.41%	267	76.95%
	2024年	29	9.27%	43	13.74%	241	77.00%
職場内でリーダーとしての役割を担っている	2017年	41	11.82%	75	21.61%	231	66.57%
	2024年	48	15.34%	72	23.00%	193	61.66%
人材育成において指導的役割を担っている	2017年	36	10.34%	71	20.40%	241	69.25%
	2024年	52	16.61%	54	17.25%	207	66.13%
地域や外部団体との対応窓口（緊急対応、苦情対応などの窓口として関わること）を担っている	2017年	47	13.58%	92	26.59%	207	59.83%
	2024年	71	22.68%	82	26.20%	160	51.12%
関連機関や他職種と連携・連絡調整をする役割を担っている	2017年	21	6.05%	62	17.87%	264	76.08%
	2024年	41	13.10%	53	16.93%	219	69.97%
関連機関や他職種と連携・連絡調整をする役割を担っている	2017年	34	9.83%	91	26.30%	221	63.87%
	2024年	60	19.17%	87	27.80%	166	53.04%
自身の職場・組織の立場から発言をする役割を担っている	2017年	33	9.54%	77	22.25%	236	68.21%
	2024年	39	12.46%	65	20.77%	209	66.77%

第Ⅳ章認定社会福祉士の認定後の「他者からの評価」

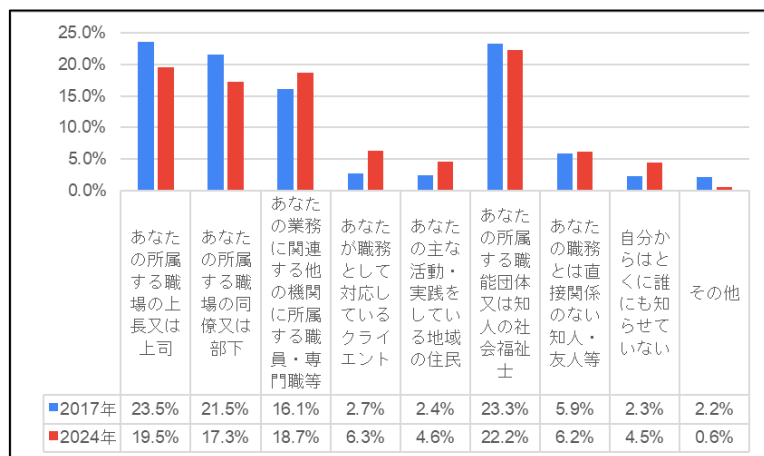
調査項目の大項目Ⅳについては、①の設問では、まず、認定社会福祉士となった本人自身が、認定を受けたことについて誰に表明したのか、②の設問では、その表明はどのような方法や手段で行ったのか、③での設問では、①②の結果、誰から関心又は評価を示してもらえたと感じたのか、を3段階で尋ね、④の設問では、その関心又は評価の内容を記述で表記していただきました。他者から評価を受けているかどうか、又は評価されていると感じたかどうか、については、非常に主観的であり、指標とはなりにくいため、一部記述での回答を求めました。

Ⅳ. 認定を受けた後の「他者からの評価」について

① 認定を受けたことを、どのような人に知らせたか。

<結果>

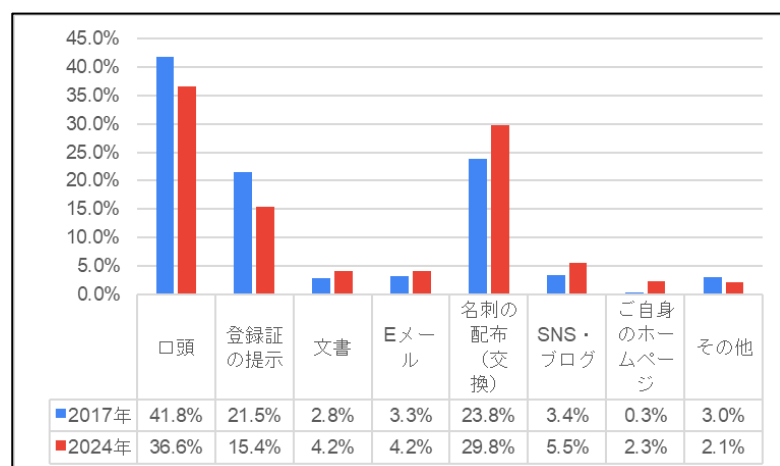
2024 年調査では、「所属する職場の上長又は上司」「所属する職場の同僚又は部下」「所属する職能団体又は知人の社会福祉士」へ知らせた割合は低下している。しかし、「職務として対応しているクライアント」「主な活動・実践をしている地域の住民」へ知らせた割合は高くなっている。



② どのような方法・手段で知らせたか。

<結果>

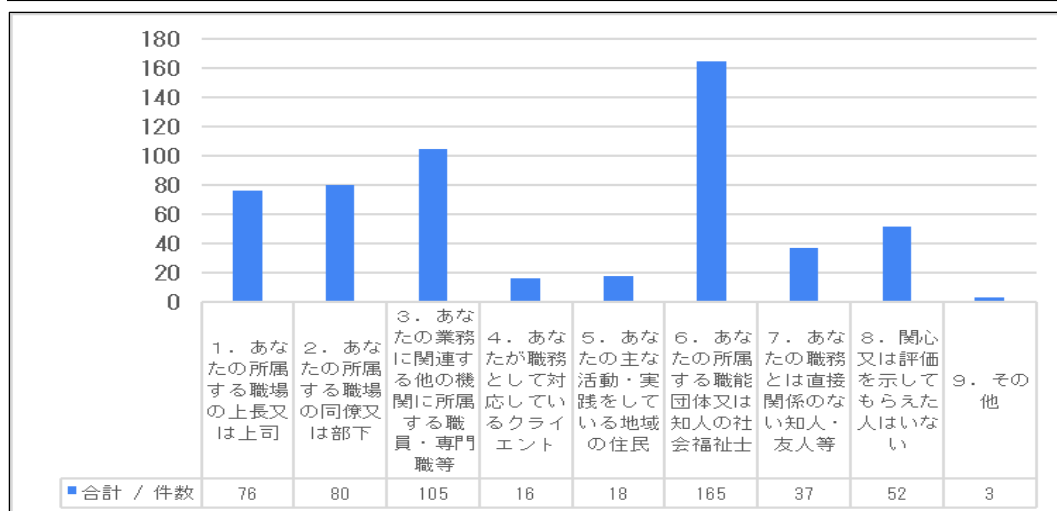
認定を受けた周知の方法・手段は、「口頭」「名刺の配布（交換）」「登録証の提示」を用いた割合は共に高い数値を示しているが、2024 年調査では「名刺の配布（交換）」以外は割合が低下している。



③ 認定を受けたことに「関心、又は評価を示してもらえた」と、あなたが感じたのはどのような人か。

<結果>

2024 年調査の「関心、又は評価を示してもらえた」と感じたとの回答は、「所属する職能団体又は知人の社会福祉士」「業務に関連する他の機関に所属する職員・専門職等」からのフィードバックが多い。



④ 「関心、又は評価」の内容について。

	内容
1	公私のバランスをとりながら、継続的に専門性の向上に努めていることについて一定の評価
2	認定を取るまでの過程が大変だったであろうと、ねぎらいの言葉があった
3	知人の社会福祉士から、認定を取ったことへの意欲や努力を評価された
4	認定社会福祉士を取得が難しく価値のあることだと思われているため、努力に対して評価された
5	今までの活動についての努力内容やこれからの活動に向けた激励を頂いた
6	一般の社会福祉士とは違うと言われた
7	よく勉強していると感心された
8	名刺をお渡しすると、すごいですねなどの言葉が聞かれた
9	社会福祉士を目指している友人で、いつも励ましてくれていたから、喜んでくれた
10	珍しいので
11	どんな経過で取得できるのか？
12	名刺を見て、これはどういう資格なの？と尋ねてくれた
13	認定社会福祉士の認定ってなんですか？「地域社会」で頑張りたいから取ったのですよ
14	頑張っている人という印象
15	大抵、「取得したい」という話は殆どない。SVを通してバイザーから聞かれる程度です
16	認定社会福祉士の取得を目指している社会福祉士から、普段の実践内容や研修におけるレポートの書き方などに関心を感じてもらえたと感じる場面があった
17	認定を目指している社会福祉士から関心を持たれた。職能団体内では誰が認定であるかは共有されていない為、余程関心が高い社会福祉士が役員でないと把握されていない
18	職能団体の他の社会福祉士は手続き等の煩雑さも条件の大変さ(時間と費用)も知っていたので、実績評価というよりも認定事務に挑んだことを労ってもらえた
19	正当な評価というより、認定をもっているんだからちゃんとしているはずと、皮肉としてプレッシャーをかけられる
20	認定のための研修レポートについてや認定取得後の研修や会議などに声をかけていただけたこと
21	合格したことへの祝福
22	関係機関との連携がしやすくなった
23	地域関係機関との協議会立ち上げから、その関係メンバーとして召集された
24	認定社会福祉士をとって、何か変化があったのか聞かれました
25	認定はどうやって名乗れるのか質問を受けた
26	もっていることについて少し評価はあった
27	認定について聞かれる、認定持っているとは他者に伝えている
28	すごいですね
29	単に難しい「認定」を取り、更新したということについての評価
30	他の都道府県の方から認定を取っていることをすごいことと評価された。その方も認定を目指している方で、取得がどれだけ大変なことかをわかっているためそのような評価につながったと思われる
31	信頼された対応
32	認定までの難しさなどの関心が寄せられた
33	まだ若いのに、たくさん勉強されているんですねというお声はかなりの確率でいただいています
34	「ふーん」と言われただけ。妻・父母からは、「そんなに苦勞するなら、精神保健福祉士のほうがよかったんとかうの」と言われた
35	口頭評価
36	複数で担当している業務において、研修会を実施する際、名前の前に認定社会福祉士と記載して、認定を所持していない人は社会福祉士と記載し区別化されている。また、殆どの社会福祉士が認定取得できていないので、認定取得に向けた学習方法等について、機会あるごとに質問を受けている
37	認定社会福祉士の登録をしている社会福祉士会の会員
38	認定社会福祉士の名刺を初めて見たと言われた

39	関心のない人が多い
40	この認定制度を理解している人たちである為、認定取得に必要なプロセスをパスしたことに対して一定の評価の言葉を頂いた
41	認定珍しいという反応
42	名刺交換した際、「認定ですか？」と言われた
43	職場や私の業務エリアでは、認定社会福祉士の価値や専門性への理解・興味が乏しい。むしろ、医療職や主任ケアマネの方が重要視される
44	「普通の社会福祉士とは違うんだね」と直属の上司から言われました。「関心」というよりも、単に「確認したかっただけ」という反応でした
45	認定社会福祉士の認定を受けようとする社会福祉士からは、認定されたことについては評価されるが、関心は認定申請の書類作成に関することに集中している
46	「すごいですね」とお褒めの言葉をいただいた
47	向上心を持って仕事をしていることを評価してもらいました
48	取得方法を改めて聞かれた
49	存在すら知られていない
50	関係している社会福祉法人の広報誌に認定社会福祉士〇〇さんとの紹介があった
51	医師や看護師、幹部は認定資格として診療報酬算定に活かせる日がくると評価してくださった。同僚達からは自己満足でしかないと、他から聴きました
52	1人はいつも懇意にいただいている社会福祉士で、県士会の理事や日本社会福祉士会でも大きな役割を担っている方で相当の知識経験のある方。もう一人はご自身も認定社会福祉士をめざされている先輩社会福祉士。この二人のみ
53	基礎研修から長期間にわたる研鑽へのねぎらい
54	認定社会福祉士制度を知っているため、将来資格を取ろうと思っている人、逆に大変な勉強をしてまで取ろうとは思っていない人、賛否両論ではあるが、一目置かれた
55	資格取得の難しさ
56	連携する専門職から「認定をもっているんですね」等といわれる
57	「さすが」「すごい」等、お褒めの言葉をいただいた。研修・会議等で認定社会福祉士としてのコメントを求められる。(いち社会福祉士より上のレベルのコメントを期待される)
58	認定社会福祉士を取得する手順等について相談を受けた
59	(あまり制度を理解していないと思われる人から)「すごいね」と言われた
60	社会福祉士の知人等以外からは「認定社会福祉士って何ですか?」「とると何かかわるんですか?」といった認知度や理解度のひくい反応が多かった
61	専門的な事例検討などへの参画へつながった
62	所属する法人内の複数のSWから取得したことについて評価された。また、母校の大学教員とSVをしてくださった大学教員に報告をしたら、取得したことについて評価された
63	社会福祉士を目指してみようという部下が増えた。同じ社会福祉士の知り合いが認定を目指そうという気持ちを持ってくれた。
64	取得当初は、組織外SVの依頼があった。今は定着した
65	努力への評価
66	最初は(まわりに)認められなくてもそのような努力は続けていった方がいいですね
67	「よかったね」程度
68	専門性があることでより活動において信頼度は上がった
69	同僚の社会福祉士に「普通の社会福祉士とは違う」と言われた。後輩が認定を取得する際に課題レポート等の相談を受けた
70	認定資格を知っている会員は、自分も目指そうと思ってくれた。また、それを意識して基礎研修講師をする際に常に喚起してきた。業務に関係する方からは「認定ですね」と技量のある社会福祉士として見られ、仕事内容に期待された
71	取得するまでの労力と能力に対する労い
72	登録証のコピーの提出を求められた。資格についての問いを受けた
73	見えない努力への、評価
74	より専門的な知識、対応等の期待を感じた
75	認定社会福祉士を目指している人から、研修内容などを聞かれた

76	社会福祉士の名前の前に「認定」が付くことで専門的な技術、知識が身についたと評価して良いであろう。という関心
77	受けるんだったらどうぞくらいの感覚
78	取得が難しいと感じている（手続きの煩雑さ含）方は、努力について評価されました
79	口頭等で「認定になられたんですね」程度
80	資格取得に対する報奨金がでたこと。認定社会福祉士の取得方法について質問があったこと
81	認定取得までの努力が認められた
82	社会福祉士から業務について相談を受けることが増えた
83	認定を取得している方からはねぎらいとおほめの言葉をいただいた
84	「認定取ると大変だったね」申請の大変さが多く聞かれた
85	認定社会福祉士であることで担う活動が、職能団体のなかにあるため
86	認定資格の取得条件や更新要件など
87	取得が大変だったよね、すごいねの評価いただきました
88	専門職やサービス事業所は認定という表記には関心を示される。地域住民はさっぱり
89	すごいね
90	認定社会福祉のことを評価してもらえた記憶はない
91	職能団体の広報誌で記事を書いた。同じ認定社会福祉士と研究を始めた
92	人数が少なく困難な「認定」、更生保護行政プロパー唯一であること
93	国試合格の資格取得者より専門性が高い、複雑なケースに対応できる、スーパーバイザーとして頼りにできる、など
94	羨望の目で見られたと思う
95	職場ね上司は、これからも期待していると関心を伝えてくれた。（既に、退職しました。）社会福祉士会で、お祝い会を開催していただきました
96	講演依頼を受けた時に聞かれた
97	無反応だけならまだいいが、コストパフォーマンスの悪さを指摘され、悲しくなった
98	すごいねえ、とか、どうやってとったのとか関心はあるけど、認定だからと評価してはいない。認定を取るときに、レポートなどで自分の実践を理論的に分析できるようになって自分の学びは大きい、それは他の人にはわからない
99	無関心だった
100	社旗福祉士からは「すごいですね」などの応答はあった
101	社会福祉士や認定社会福祉士を目指したいですとありました
102	おお！自分も目指したいという反応があった
103	クライアントがこれから利用するサービス機関の担当者に名刺を渡し挨拶する
104	資格取得時にお休みを頂いたり、協力を得たりと職場の理解を得るため上司に伝えていた。取得した事を報告したら、努力を讃えて下さった
105	制度の概要
106	すごいねと言われた
107	トップから「認定社会福祉士になるとどうなるのか？」と質問がありました。→私「知識が増える。その次の上がある。」と報告しました。→トップから「上を目指しなさい。」とご指導がありました
108	認定社会福祉士の社会的地位について。資格取得までの流れ等
109	認定社会福祉士を取得するのが困難なことが理解している
110	実際、基礎研修や認定を受けている人達のみでの関心・評価となっている
111	資格取得をどのようなルートで行ったのかの実務的な内容についての質問があった
112	学びを深めたことに対して評価された
113	専門性への評価
114	努力へのねぎらい
115	自己研鑽している社会福祉士と評価されていると思います
116	取得した際に評価されたのみ
117	認定受けるまでのハードルの高さがあるので、努力したことに評価をいただいた
118	同僚や社会福祉士の仲間は関心を寄せてくれた
119	取得方法を聞かれた

120	法人の名刺に「社会福祉士」と「認定社会福祉士」と両方印刷しているため、職場内や福祉関係の人、社会福祉士会の活動に積極的な人たちには「認定」の意味をわかっていただけたことが多かった
121	認定社会福祉士としてスーパーバイザーとしてくれた
122	認定社会福祉士を目指している会員より「すごいですね」という口頭での評価のみ
123	認定を取るようになった人が増えた
124	認定を受けたことに対する、自身の努力を含む評価と支援への信頼
125	社会福祉士の知人へ認定制度について説明し関心をもってもらった
126	「頑張りましたね」「すごいね」という言葉が多かったです。資格そのものより、自己研鑽していたことに関心を持たれました。なかには「それってなにか役に立ちそうですか？役に立つなら目指したいですが、とっても変わらないなら、費用が掛かるので取らないでおきます」という趣旨の質問も何度か受けました
127	認定の仕組み
128	認定取っておられるんですね・程度の反応
129	他機関のスタッフからは、普通の社会福祉士との違いを聞かれた（関心）。所属する社会福祉士会（県）と同じ時期に認定を取った社会福祉士からは、具体的な形ではないが、評価してもらえた
130	認定社会福祉士という言葉に反応する人はとくにいなかった
131	認定を受け、なおかつ、更新したことに対して「なかなかいい」と驚かれた
132	一緒に喜んでもらった

第Ⅴ章 認定社会福祉士の 認定後の 所属組織等における 「 処遇 」 の変化

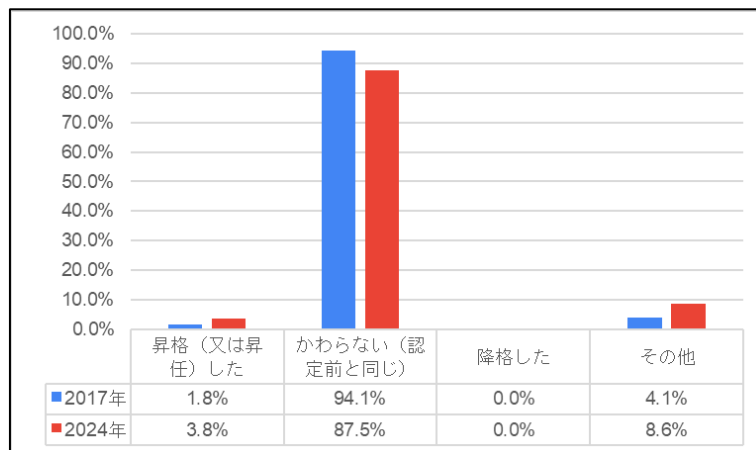
調査項目の大項目については、①の設問では、まず、所属する組織や職場で、認定を受けたことで、立場・職位はどのように変化したのかについて、②の設問では、認定を受けたことで収入が変化したかについて、③での設問では、②で収入が増えた人に対して、どのような収入が増えたのかについて尋ねました。

Ⅴ. 認定を受けた後の、所属組織等における「処遇」について

① 所属する職場等で、認定後の立場・職位の変化について

<結果>

所属する職場等で、認定後の立場・職位の変化について「かわらない（認定前と同じ）」という割合が2017年調査および2024年調査ともに高い。



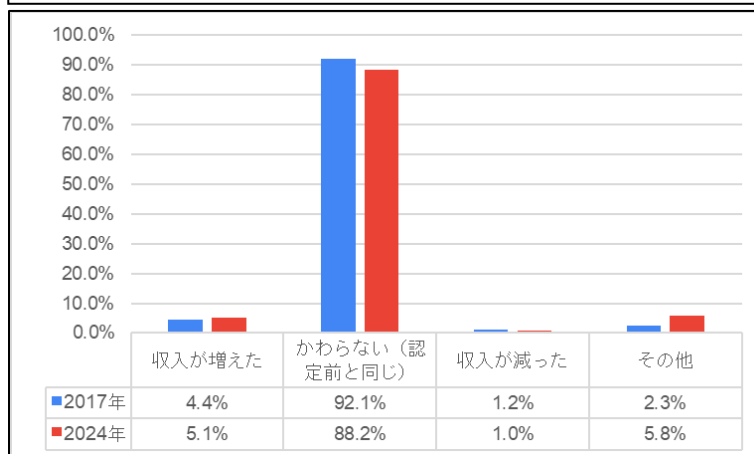
	4. その他
1	資格取得時は賞与があった
2	能力に応じた職位が与えられた　ただ持病悪化で管理職は辞退
3	認定を取ったからではなく、実践力を評価されている
4	管理職にはなりましたが、認定とは関係ありません（職場では認定の話はしていません）
5	おそらく評価はされていると思われる

6	認定社会福祉士でなければ業務はなかった
7	運営のために必要な資格、という肩書きは必用とされていますが、それ以上も以下も期待されることも認められることもなく、退職しました。今は業務契約しています
8	私事都合で転職したのでなんとも言えません
9	直接要因ではないかも知れないが、別な組織から声がかかり転職した
10	認定を受けた時期と今は異なる機関、職務にあるため評価できない
11	相談部門から外れてしまった
12	自営（独立型）のため変更なし
13	自営業なので関係ない
14	独立型事務所
15	独立型なので該当しない
16	独立しているので、職場内では変わらないです
17	脱サラリーマンになった
18	雇われていない
19	個人経営なので関係はない
20	一人職場の独立型なのでとくにない
21	もともと法人経営者であり、昇格等は自分にはない
22	職位は変わらず
23	昇級試験に落とされた
24	職場（上司）には関心を持ってもらえなかった
25	特段の変化は無い
26	かわらないが、上席からは、「精神保健福祉士、公認心理師をとってほしかった」。同僚からは、「認定社会福祉士って、なんの意味があるん？そんなんに投資してどうすんの？」と、逆に、「バカ」にされるようになった
27	なし

② 認定を受けたことで、収入は変化したか。

<結果>

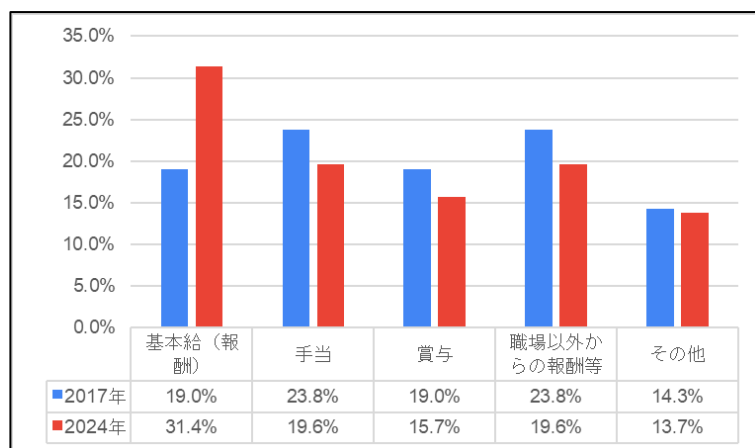
2017 年調査および 2024 年調査ともに、収入が「かわらない（認定前と同じ）」と回答した割合が高い。



③ 「1. 収入が増えた」はどのような収入か。

<結果>

2024 年調査では、「基本給（報酬）」以外は収入が増えたと回答した割合が低下している。



第Ⅵ章認定の登録期間の終了後のことについて

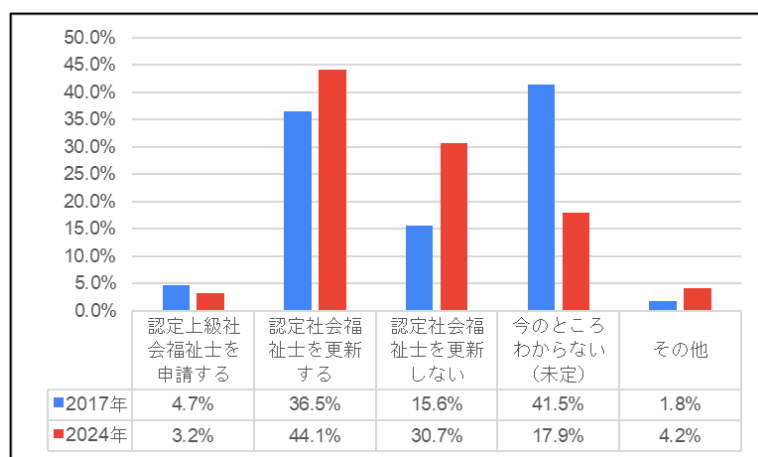
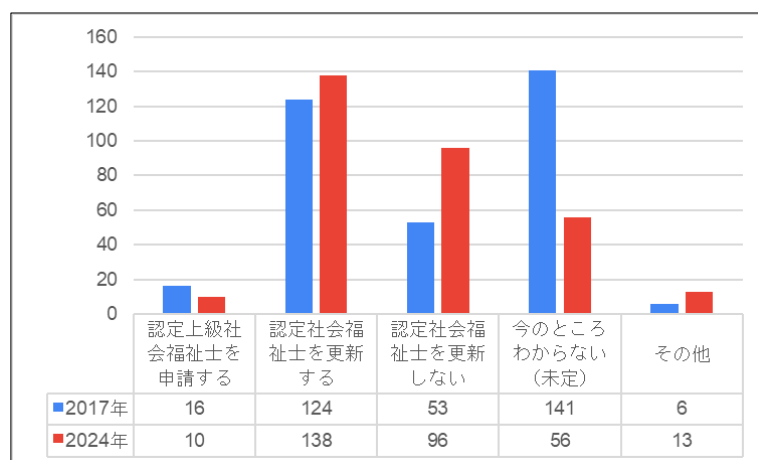
調査項目の大項目Ⅵについては、認定社会福祉士の登録期間終了後に認定上級社会福祉士を申請するか、認定社会福祉士を更新するかしないかを尋ね、更新しない理由と認定上級社会福祉士を申請する理由、認定社会福祉士を更新する理由、未定の理由を尋ねました。

Ⅵ. 認定の登録期間の終了後のことについて

① 現在の認定の登録期間終了後、どうしますか。

<結果>

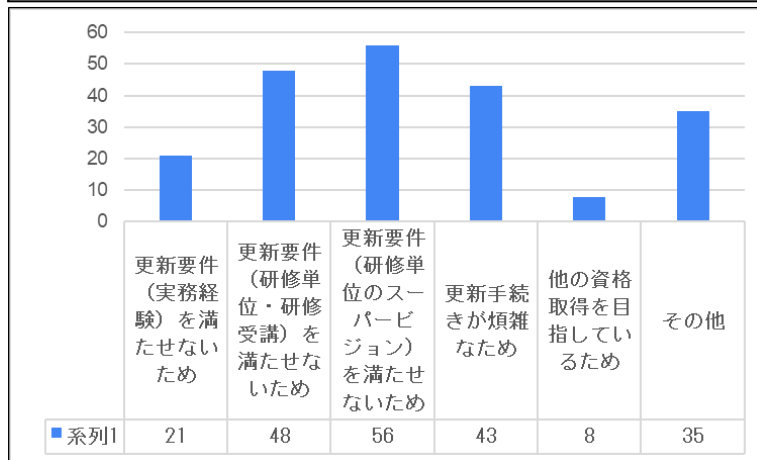
2017年調査では「今のところ分からない（未定）」との回答数および割合が高いが、2024年調査では「認定社会福祉士を更新する」「認定社会福祉士を更新しない」に二分されている。



②「3. 認定社会福祉士を更新しない」その理由

<結果>

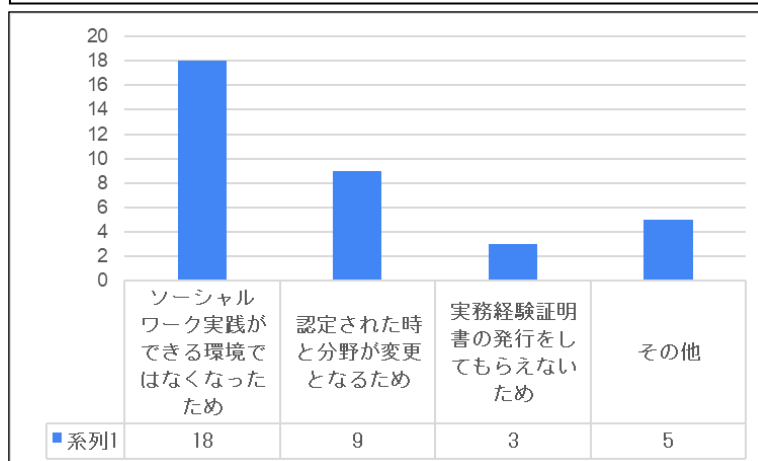
2024 年調査では、更新しない理由として最も多いのは、「更新要件（研修単位のスーパービジョン）を満たせないため」「更新要件（研修単位・研修受講）を満たせないため」であり、「更新手続きが煩雑なため」が続いている。



③「1. 更新要件（実務経験）を満たせない」理由

<結果>

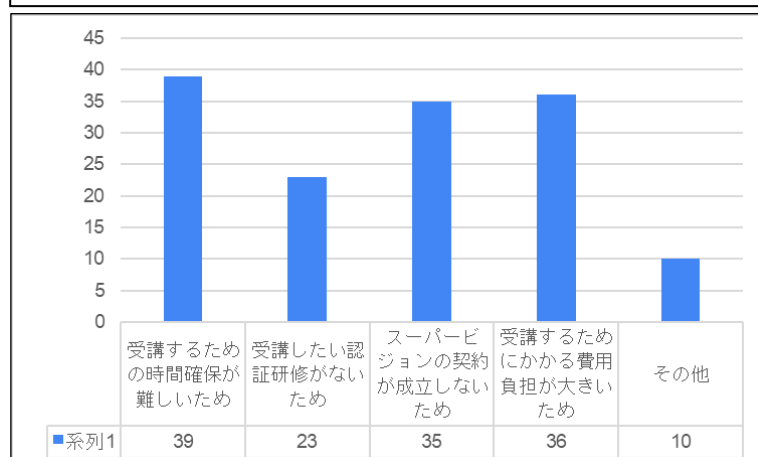
2024 年調査では、「1. 更新要件（実務経験）を満たせない」理由として最も多いのは、「ソーシャルワーク実践が出来る環境でなくなったため」との回答が多い。



④「2. 更新要件（研修単位・研修受講）を満たせないため」・「3. 更新要件（研修単位のスーパービジョン）を満たせないため」の理由

<結果>

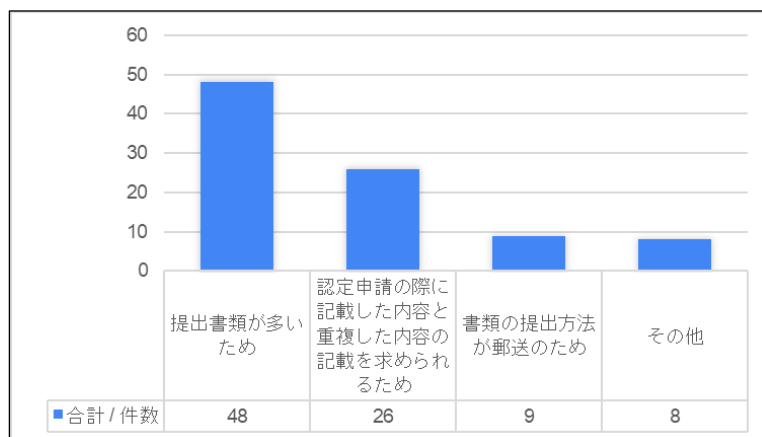
2024 年調査では、「2. 更新要件（研修単位・研修受講）を満たせないため」「3. 更新要件（研修単位のスーパービジョン）を満たせないため」の理由として、「受講するための時間確保が難しい」「受講するためにかかる費用負担が大きい」「スーパービジョンの契約が成立しない」との回答が多い。



⑤「4. 更新手続きが煩雑なため」とはどのような点が煩雑か。

<結果>

2024 年調査では、「4. 更新手続きが煩雑なため」の理由では、「提出書類が多いため」「認定申請の際に記載した内容と重複した内容の記載を求められるため」の回答が多い。



⑥「1. 認定上級社会福祉士を申請する」理由

1	取った方がいいと思うから
2	自己研鑽の証になるため
3	まだまだ人数が少ない為
4	高みを望みたいから
5	認定上級社会福祉士を当然ながら目指していくつもりではあるが、方法が分かりにくく、単位取得などの詳細が分からない
6	専門職は、常に自己研鑽が求められており、社会福祉士としての実践力を高めるようにサポートして行けたらと考えている
7	県内で会員の認定取得の意識を高めていくためにも上級取得を意識している
8	ここまで取ってしまったため、そのままにしておくのはもったいないと思うため。少しでも認定の認知度や地位が上がるという期待をしまっている
9	認定社会福祉士の学びは、正直有用だったのですが、周囲の無反応が悔しいので、更なる高みを目指したい
10	せっかくここまで来たので上級までは取りたいとは思っている。とったら何か変わるのか期待もしている

⑦「2. 認定社会福祉士を更新する」理由

1	専門家として、職能団体の評価を受けることは、現時点で待遇などに結びつかないにせよ、社会に対外的に示すことができる基準には違いがないので
2	自身の業務を振り返る機会として更新する
3	独立型社会福祉士として名簿登録しているから
4	メリットはそれほど感じていないがせっかく取得したためという後ろ向きな理由。更新ポイントの要件(時間、内容、頻度、場所など)が他の更新のある専門職資格に比べ厳しい
5	認定制度のスーパーバイザーや独立型の業務を継続するため
6	上級はどうやってとるのかわからないので、2回目の更新を目指したい
7	条件が整えば進めたい
8	独立型社会福祉士を名乗る上では更新したほうがよいと思うから。また、自分のいる地域で認定をもっている者が極めて少ないとなると、若い者のためにも目指すものとして持っていた方がよいと思うから
9	自身の資質向上の維持向上(ケアマネの更新と同様の考え)が主な理由です
10	勿体無いから
11	やれることはやるのみ。更新がしやすくなっているから
12	認定上級にはなりたいたいけれど、しくみとハードルの高さを感じる

13	特に理由はないが、更新するのは当たり前だと思うから
14	所属する県社会福祉士会や、社会福祉実践の場において、後進の育成を含め、自分にできることをやっていきたいと考えており、そのためには更新したほうが良いと考えているから
15	独立型社会福祉士であり、その要件が認定または上級認定となっているため
16	とりあえず自己研鑽はつづけていきたいです。その中で、自身の成長や変化を感じることもあるからです
17	自己研鑽を続けるモチベーションとなるため
18	知識、技術、倫理について、ブラッシュアップするため
19	自己研鑽は続けていきたい
20	とりあえず取得しているので責任として
21	更新を継続することでソーシャルワーカーとしての価値と意識を向上させたい
22	せっかくやってきた事だから続けたい
23	ソーシャルワーク実践の場と業務内容を鑑み、認定上級社会福祉士の申請要件が満たせないと判断したため
24	更新出来るよう学びや実践は続けていくつもりである
25	自己研鑽を継続するため
26	更新を維持することで、自分自身の質を保ちたいと考えたから
27	取得過程は非常に苦労しましたが、その苦労が確実に自分のスキル向上に寄与している実感を持てたため
28	せっかくなので
29	先のアンケート回答に記載したように、各種評価されない状況が続いているが、認定社会福祉士を取得した当時の初心に立ち返り、自己研鑽を継続していきたいから
30	年齢的に1回更新はできると考えているので、現在準備している渦中なので、頑張りたい
31	そのように自分では思う
32	特に継続することに意味があると思ったから。社会福祉士会の発展のために認定社会福祉士の人数が増えることは重要と考えているから
33	定年後は独立型社会福祉士事務所を立ち上げたいと考えているため
34	独立して働きたいと思っているため
35	効力停止中であったが、単位が集まったため
36	社会福祉士の国家資格を取得しているだけで研修等を受けて自己研鑽をしていない人との違いを明確にするために更新をしたいと考えています
37	認定上級社会福祉士を申請したいので
38	今後の自分の組織の所属の有無や職業人生を考えた時に、上級をとっても発揮できる場面が想定できないこと、しかし、自己研鑽を兼ねて更新はしていきたい考えるため
39	当たり前であると思って揺るがない
40	認定社会福祉士の更新可能な単位を取ったため、一回くらいは更新したい
41	専門職として現役で在る以上は、自己研鑽が求められるから
42	せっかくの機会なので条件を満たす限りは続けていきたい（他に他者と勝負する武器がないため）
43	ソーシャルワーカーとしての力量を高めることが出来ると考えているから
44	専門職として常に自己研鑽を行い、自身の実践力を向上させる必要があるため
45	せっかく費用をかけ、努力をして取ったから
46	すでに更新に必要な単位をそろえているため次回は更新する。しかし、時間とお金をかけて揃えた更新に必要な単位等が、周知期間なく、年々甘くなっている状況を憂慮している。このままでは、次々回の更新はしないと思う
47	初めての更新となるから
48	学び続けるという姿勢を持っていたいから
49	更新研修を受けたため
50	せっかく認定を受けたので、更新しないともったいない気持ち
51	一回は更新しようと思う。その次は未定

52	認定社会福祉士更新研修ができ、更新の手順がわかりやすくなったため
53	今の価値・知識・技術を維持していきたいから
54	質の担保が必要であるため
55	更新の準備をしていく過程の中で、知識の更新が図れるため
56	引き続き、自らの自己研鑽と社会的責任を果たしたいから
57	これからの活動に必要と考えるから
58	向上心
59	1回目の更新を今年に行った
60	今後、社会福祉士から認定社会福祉士であることに標準化されると思うため
61	もともと更新する予定だったが、コロナ禍で更新ができなかっただけなので
62	認定社会福祉士として適格なのか、実践を振り返る機会としたい
63	資格更新の研修等への参加により自己研鑽ができると思うので
64	今後も後進し続けていく必要性を感じているし、自己研鑽のためには必須な資格であると考えているため
65	自身の実践力の担保になると考えるから
66	せっかく取った資格なので更新はしたい。今後、認定社会福祉士が広く広まることを期待して。今回、単位が足りなくても更新できる研修があり、受講予定です。このような更新研修があるととても助かります
67	今後も認定社会福祉士としての経験を重ねていきたいと考えています
68	課題は多いが制度を維持していくため
69	更新研修があることで、更新できると考えたため。更新研修がなければ更新するチャンスを失っていた
70	申請は大変だが、一定の研修を受けることをするので学びになるし、それを自分で確認する、他の社会福祉士にも申請してもらうことになる。微力だが会のためになると思う
71	今年更新予定のため
72	認定社会福祉士となったからには更新はしたい。しかし、更新の手間や、申請が複雑なので効力停止になると思う。失効になるまでは更新への努力はしたいと思う
73	集中セミナーに参加したので、一応更新してみようと思うが、手続きが煩雑なので出来るかどうか分からない
74	自分の支援の質を保つため
75	更新したい気持ちはあるが既に要件を満たさず切れている
76	知識・勉強を続けたいから
77	今回 SV を無料で実施させていただくはずの方が入院されたが幸いに講習参加が可能だった
78	せっかく認定社会福祉士を取得したし更新条件を満たしているから
79	勉強になるため
80	地域でスーパーバイザーとしての役割があるため
81	来年の9月が更新時期となるので、スーパービジョンを受けるを進行中である
82	更新することをきっかけに自分の実践の振り返りになるから
83	制度普及は必要と思うため
84	継続して自己研鑽を行いたいから
85	独立型社会福祉士事務所の登録に必要なだから
86	独立型の要件になっているため。また「認定された」というのが一つの差別化になっているような気がするため
87	更新する要件を満たしている場合は、「まあ、やっておくか」の更新
88	自分自身のソーシャルワーカーとしての技術を担保するため
89	頑張って取得した認定社会福祉士なので、更新は煩雑だが、自分自身の自己研鑽の意欲維持の為に、更新はしたい
90	苦労して取得したので一応更新はするが、メリットはほぼない
91	時間をかけて得たものなので今後も継続していきたい
92	自己研鑽を続けたいと思ったため
93	独立型事務所を継続するためには必要であるから更新申請をします

94	もう少し、挑戦したい
95	自分自身のために学びを続けるため、更新したい
96	スーパーバイザーとしての活動もできるようになるため
97	これからどのように発展するかはわからないが、更新できる準備が整ったので、行う
98	一応更新要件が整っていたので。次回からは分からない。社会的評価が低いのに！金銭的負担や時間的労力を費やしたくないため
99	今年更新の年なので準備中
100	職場が取得・更新を推奨しているため
101	資格を維持したい
102	認定上級社会福祉士を持っている方と出会う機会はなく、内容としても現段階では必要性を感じないため、認定社会福祉士の更新を目指したいと考えている
103	独立型社会福祉士を目指しているため
104	メリットが感じられるかは不明であるが、社会福祉士としての自己研鑽として良い機会であると思うので。せっかく認定を受けたのに、効力停止ももったいないと思うので
105	現在、コロナの関係で延長期間中です。もう更新手続きが煩雑だし、よくわからないのでやめようと思いましたが、信頼している仲間(認定社会福祉士ではない)が、せっかくだから更新したらと言ってくれたので、もう一度だけ更新はしてみようかと思いました
106	目標にしているため
107	独立型に登録したいから
108	更新研修済。R6.9に更新手続きをする予定。更新研修はとても有意義であった
109	地域を活性化する上で、できるだけ専門的な福祉知識を伸ばしながら、福祉貢献を行いたい
110	独立型社会福祉士とスーパーバイザーの登録を継続したいため
111	認定上級社会福祉士の要件を満たすのが難しいと考えているため。認定社会福祉士更新の要件を満たすのは可能と考えているため

⑧「4. 今のところわからない(未定)」の理由

1	更新をしても、何もメリットがない。スーパービジョンを受けても自分に合った助言をもらえるか不透明
2	提出書類が分かりにくいいため、更新手続きができるかどうか不安がある。また、更新できなくても、業務に大きな支障はないので、更新の必要性は感じていない。
3	この資格に意味を見出せないため
4	認定への魅力が感じられない
5	社会福祉学博士学位を取得したので
6	独立型社会福祉士を続けていきたいため
7	スーパービジョンを受けることができていないため
8	更新のための条件が厳しすぎる。単位が取れない、スーパービジョンを受けられない
9	本当は更新したく受けられる研修は受けているが、子育てや介護、現在の職務に関わる更新研修(主任ケアマネジャー)や社会福祉士会やばあとなあで行われる研修を受けていると、研修三昧の生活になる。時間的な余裕がある人(無理にでも作り出せる人)でないと受けられないとつくづく感じる。また給与や待遇に何の影響もないため、家族との今しかもてない時間を削ってまで目指すものなのか迷っている
10	取得するメリットが自己満足で終わるような気がする
11	今の制度を見直してください
12	指導実績、スーパービジョン、研究実績等については十分要件を満たすが、管理職であることもあって、分野の動向の研修時間を満たさないと。そのために特別研修を受講する時間的余裕はないから
13	社会福祉士会のスーパービジョンを受けていないために更新をしていないのですが、猶予期間の間に検討していこうと考えております
14	メリットがない

15	次回更新前に定年になることから。その先の雇用は不明
16	要件が満たされれば更新したいが、今の要件だと難しい。NPO 法人を立ち上げて、権利擁護支援事業等を実践している。実践を重視して欲しい
17	費用が高く、更新要件で講師経験や学会発表などが求められるから。退職し実習指導の機会がなければ、この部分の実務要件が満たせなくなる。また、現状では認定社会福祉士であることのメリットが少ない事も理由
18	①更新手続きに煩雑さを感じます。現況、研修の講師や全体進行役などを度々、様々な形で担っています。それらの時間数を換算し直したり、証明書類を全てに添付したり、5年間分をまとめ上げることに負担を感じます。②他の資格取得を目指すことも考えています。更新へ向けての研修受講や、スーパービジョン契約の成立と継続など、「どれだけ時間と費用を割けるか」「資格を維持することで職務上のステップアップが見込めるか」を現実的に考えると、学位を取得する方が良いように思っています
19	単なる自己満足ではないかという疑問がある
20	手続きの煩雑さを思うと迷ってしまう。もっているメリットも少ないため
21	分野が異なってしまう、職場も異なるため役割等に変化もあるため
22	スーパーバイザーの確保が困難であれば、更新は難しい
23	所属している組織に定年退職後の再雇用者だが、その後についてビジョンがまだ未確定
24	取得した具体的効果について実感が得られないため
25	年齢的な問題があると感じる
26	年齢によるもの
27	氏名、所属機関が公表されることについて抵抗があるため。認定資格取得について、様々な意見があり、否定的な人の意見を受け止められるほど自分に余裕がなく、意識を変えるところまで自分の気持ちを整理することができない
28	更新したばかり。大変なエネルギーを要したが、認定の価値が実感できていないので
29	認定取得した分野とは異なる分野で現在実務についている。分野変更して、認定更新できるなと思っている
30	認定後に転職し、今回の更新では児童分野で認定を受けることを考えていたが、現時点では煩雑な手続きをしてまで更新する意義・メリットを感じない。こども家庭ソーシャルワーカーの資格を取得する方が職場での評価が上がる可能性があるため、来年3月に受験する予定
31	このままメリットが無ければ更新する意味がない
32	新規登録をしたばかりだから
33	年齢的に、いつまで社会福祉士として実践できるかを考えると更新するかどうか不明
34	業務多忙であり時間捻出が難しい。職場で理解が進めば職務上対応可能となるがあくまで自己研鑽として扱われるため、そこまでして更新する意味が見出せない
35	現時点で本当に必要な資格なのかがわからない
36	更新要件（研修の時間と費用）が負担
37	魅力がない
38	業務の都合上
39	課されている課題、手続き、共に大変すぎるのに、資格取得のメリットがほぼないため
40	認定をとるためのプロセスには非常に意味を感じるが、取ること自体のメリットがよくわからない。様々な会に所属していて経済的にも負担
41	体調面を見ながら要検討
42	スーパービジョンは継続したいが、認定社福の資格そのものを所持している意義が感じられない
43	スーパービジョンができるか、その他の更新要件を満たすかが分からないため
44	スーパービジョンを依頼されるかわからないため、「する」が達成できないかもしれないから。また、そろえる書類の内容が大変わかりづらいため。要件がそろえば更新したいが、そろわないかもしれないので、そろえば更新しようという心情です
45	更新について、一度個別に相談をしたい

46	できれば更新したいとは思っているが、取得前後で大きく変わったところもなく、更新するためのSVや研修等が十分できておらず自分はその能力にないのではないかと考えたりしているため検討中
47	認定申請にかかる時間の確保と提出書類の煩雑さ
48	高齢であること、認定資格のもつ意義・評価があまり得られないため
49	更新したいと思います、スーパービジョンを受ける機会をえるのが難しいため
50	親の介護があり、活動する時間の確保が難しい。更新しても、メリットが分かりにくい
51	他の資格の継続研修の受講がある。もうすぐ後期高齢者になる。認定の研修要件をクリアできる時間と体力が心配
52	メリットが現時点では感じられないため

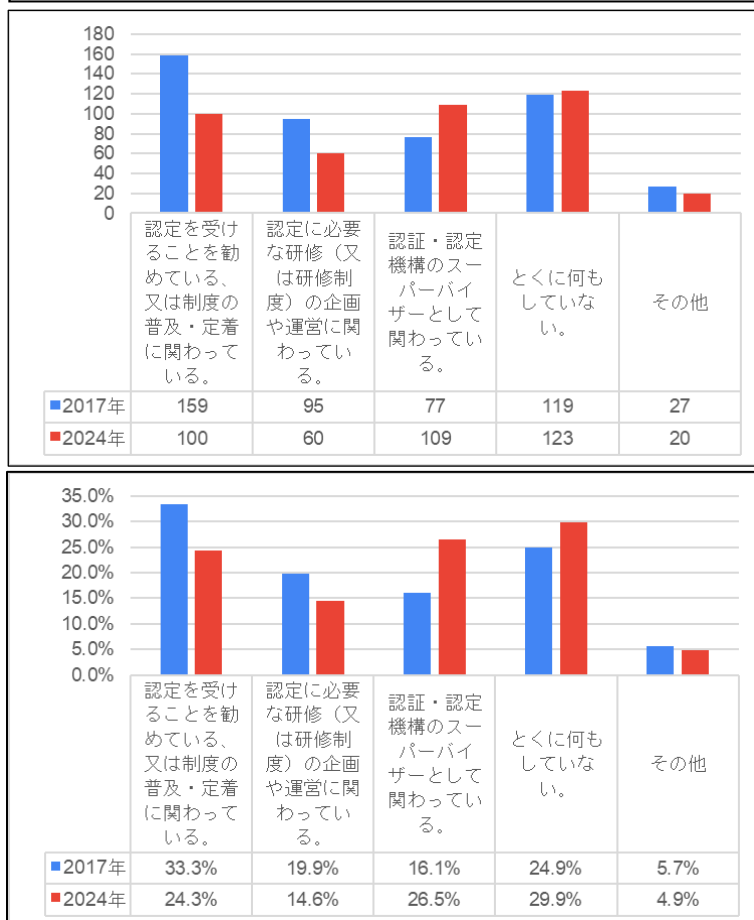
第Ⅶ章認定を受けていない社会福祉士に対しての関わり

調査項目の大項目Ⅶについては、認定社会福祉士が、現在、認定を受けていない社会福祉士に対してどのように関わっているかについて確認しました。

Ⅶ. 認定を受けていない社会福祉士に対しての関わり

<結果>

2017年調査との比較では、「認定を受けることを勧めている又は制度の普及・定着に関わっている」と回答が減少している。しかし、「認証・認定機能のスーパーバイザーとして関わっている」割合が高くなっている。また、2024年調査では「とくに何もしていない」の回答の割合も高い。



第Ⅷ章認証・認定機構による認定制度運営の全般について

最後の調査項目の大項目Ⅷについては、認証・認定機構による認定制度運営に関することについて、普段、考えていることや提案したいこと（アイデア・方法・アクション等）について、記述で回答を求めました。

ただし、まったくの自由記述ではなく、あらかじめ、「認定社会福祉士申請要件について」、「認定社会福祉士の更新の申請要件について」、「定上級社会福祉士の申請要件について」、「「スーパービジョン」実績について（SV（受）、SV（する））」、「認定の「手続き（認定申請・費用）」等について」、「認定社会福祉士の活用、認定社会福祉士の評価の向上について」、「その他の意見・提案」というテーマ別に回答を求めました。

VIII. 認証・認定機構による認定制度運営に関することについて

1. 認定社会福祉士申請要件について

1	今までの生き方の否定になると思ってしまうので、考えないようにしている
2	以前よりはわかりやすくなった
3	ソーシャルワークの倫理・知識・技術を持っているかを、もっと重視して欲しい
4	実績が無くてもあるように申請している人をよく見かける
5	手続きが複雑。もう少しシンプルにしてほしい
6	認定社会福祉士資格取得のための研修受講料、認定申請料、登録料とそれぞれ料金を支払い、社会的認知度は未だほぼゼロ。資格としてどうなのかと思う。認定社会福祉士を取得しなかった同僚も複数いるが、彼らの選択は間違っていなかったのではないかとさえ思う
7	入口は現状で良いと思います
8	試験を課しても良いのではないと思う
9	申請に、大学院資格要件も設けて欲しい
10	養成校等の教員も申請できるようにしていただきたいです
11	入会率が低く人手不足が進む中、特に認定は多くの方が割と手軽に受講出来るように要件を改めるべき。具体的には、職能団体での活動や職場外での講師活動などをもっと沢山要件に入れるべき。内容が学術に偏りすぎており、現場の実践に活かせる内容となっていない。ここを改めないと、目指す人は少ないと考える。更新では、尚一層その方向にすべき
12	これまで通り
13	認定研修は対面式の方が充実すると思う
14	認定要件を緩和する
15	実践、労働環境と求める内容がマッチしていない。特に分野ごとというのがナンセンスだと思う
16	認定社会福祉士でなければ業務はない
17	社会福祉学博士学位を取得したので、アカデミックなことも、認定条件に入れて欲しい
18	基本的な更新方法をしっかり提示してほしい
19	これまでの申請要件は多くのパターンを残しながら、認定司法書士の申請も採用し、特別研修受講、認定審査に合格する方式も取り入れることも必要ではないでしょうか
20	経験年数が長いとそれだけ業務に拘束ある。研修たまに有給取れない
21	煩雑。問い合わせしにくい
22	基礎研修ルートについて、ⅠからⅢまで6年以内に修了しなければならないという、期限の設定は緩和したほうが良いと思う。ほとんどの受講生が働きながら時間と労力・お金をかけて研修に臨んでいるのだから、余裕のないスケジュール設定は、やる気のある社会福祉士まで挫折させてしまうのではないか
23	職場上司の評価や所感、普段の社会福祉士としての組織での役割実践に関する評価、コメント、県福祉士会における委員会活動などの貢献などを取り入れてもらいたい
24	複雑すぎてわからない
25	更新できる期間に、育休や、異動等で実践者でなくなった期間の猶予がほしい
26	単位を取得する研修を増やしてほしい
27	時間もお金もかかる。救急認定のように2日間の研修の後、筆記試験等にした方が認定者は増えそう

28	時間がかかるため、なかなか増えないと思います。また、社会的な地位や認知度も低過ぎます。自己研鑽の思いだけでは、毎年、微増でしかないと思います
29	主任ケアマネジャーの更新研修やばあとなあの研修等、生涯学習的な研修も、自己研鑽ではあり、関連していると思うので、カウントしてもらえると、更新を諦める気持ちが少しは軽減する（少しはやっぱりチャレンジしようかなと思える）
30	論文やパネル発表していきたい
31	簡略化を望む Web 申請など
32	もうすこし簡便だと助かる
33	認定から見直すべきである
34	低所得である福祉職のことを考え費用の軽減や、給与が確実に上がるようにするための働きかけを行うなど取得メリットの創出
35	課している研修の条件が高すぎる。研修時間や「SV 受ける」などが、実践者としてのスキルがある人は、到底その時間を捻出できない。暇でスキルのない社会福祉士なら可能
36	妥当ではないか
37	スーパービジョンが高い壁となっている
38	コロナ過以降、該当する研修の数が減少し更新環境が厳しくなっている
39	申請要件がわかりにくいので、分かりやすい説明をしてほしい
40	あくまでも印象ですが、社会福祉士会以外の団体に所属している方が、要件を取りやすいのではないかと気がします。また、実際にソーシャルワークの現場に出ることがないような方々の方が、日々実践している社会福祉士より申請要件が緩いのではないかと意見を聞いたことがあります
41	認定研修は非常に学びが深く、高い鍛錬が必要であると認識している。受講する人に推奨される経験や研修等を明記していくと目安となってよいと思う
42	認定精神保健福祉士も共通箇所とかあればよかった
43	自分はたまたま単年度の学校講師の依頼があったので、それらを入れることが出来たが、研修履歴だけでは厳しかった
44	要件を緩和し、「基礎研修（3年間）の修了とスーパービジョンを受ける」ことで申請を可能としてはどうか
45	分かりやすく説明する自信がない
46	ハードルが高すぎる
47	ソーシャルワークは臨床（現場）の技術と考えると、その評価者は自らも、クライアント（地域や集団を含む）を現時点でも持っている者がすべきと考える。したがって、申請に対する評価者も臨床家（現場のソーシャルワーカー）が行い、その根拠は医師等と同じく、支援結果からの技術や知識の評価であるべきと考えます。その担保の方法として、申請については現場のソーシャルワーカーとしてケース対応や技術に長けている者が推薦するような、方法が望ましいと考える
48	現行要件では、「質」がバラバラです。これが、認定社会福祉士の価値・評価をさげています。いかなる場合でも、例外なく、「「基礎研修1・2・3」必修」必須とし、基礎をたたきこんだうえで、「所属する都道府県社会福祉士会が推薦する者」のほうが、社会的地位、認知、信頼度が高まるのではないのでしょうか。また、社会福祉士会への所属意識が高まると思います。さらに、認定社会福祉士認定研修の内容と同等の課程を「応用研修1・2」の2か年課程として新設し、必須としてはいかがでしょうか
49	取得者が少ないからといって、認定が簡単に取れてしまうようにすることは、認定に対する評価が下がるのではないかと思います。現状の維持、それ以上のハードルを課すことは必要ではないのでしょうか
50	認定医療ソーシャルワーカーとの制度の一般化を進めてほしい。両認定を取得することの経済的負担や手間が大変大きいため
51	初回認定は基礎研修などで単位を集めることができるが、分野変更をした場合など、追加の単位を得ることが現実的に不可能である
52	申請要件についてはいいと思います。基礎研修後からの継続した学びは、とても貴重な機会となりましたし、学ぶことが楽しかったです。契約によるSVや認定社会福

	社士研修のピア SV はとても大きな学びの経験となりました。学びとしては大満足しています
53	地方でも認証研修（オンライン研修を含め）を受けられるようにする
54	認定受講前は要件が厳しいと感じたが、終了後は認定の要件を満たせたことが自信につながっている
55	大学の教員等でも申請・更新できるようにしていただきたいです
56	わかりやすい流れ希望。診療報酬に関連する研修も認めてほしい
57	SW として心理・面接技術も含め会に認められた人物に SV を受け、その SV の名前を使って SW の仕事をする。一定の研修期間を経て SV に認められた者が認定社会福祉士として申請できる。SV のシステムと実務を含めた研修期間を申請要件とする。そして SV についてはバイジーが希望の SV を選び、変えることができる。また、会として心理を含めた、面接技術の評価尺度を持つことも必要かと
58	生涯研修管理システム内で自身が申請要件に該当するようステップアップの状況が見える化（グラフ化）する。また申請要件が複雑すぎて分かりにくいので要件緩和・簡素化することも検討していただきたい
59	複雑で分かりにくい。同じ研修を受けてしまい、1 単位足らずに認定社会福祉士を申請するために 3 年待った経験がある
60	費用がかなりかかるのはいかがなものかと思う
61	最初に比べ、ルートが増えたので、複雑になった感じがします。（理解に時間がかかる）
62	基礎研修修了者に認定社会福祉士のパンフを郵送する
63	既存のままで良いと思います。ハードルが低すぎると質が低下します
64	基礎研修をクリアをしていないベテランコース、既得権益は不要。ベテランも何年経験あろうと現制度の基礎研修から受講すべき
65	研修の受講が間に合わないため、集合研修だけではなくオンライン研修も継続して欲しい
66	申請、取得費用が
67	よりわかりやすくしてほしい
68	研修講座の開催を調べています
69	ソーシャルワーク実践の記述に経営管理をきちんと盛り込んで欲しい。対クライアント以外は認定社会福祉士の取得は認められないと映ってしまうため
70	定められた実績のうち社会活動実績については、公的な機関や団体からの依頼でなくても、地域の相談会など活動しているものも認めていただきたいです。年間何回も参加して、地域の中で相談活動を行っているものも大切な社会活動だと思います。また、有名な方でないと公的機関や団体からの講師依頼などは来ないと思います
71	安易に取得できるのもいかがとは思いますが MSW 協会等と比較し社会福祉士会のほうが取得しにくいという意見があるところはできれば統一していただきたい
72	要件の単位が分かりづらい。ホームページのマイページで研修単位をもっと簡単に管理できるようになればいいと思う
73	分かりやす申請の仕方が求められる
74	認定合格のための県士会での体制を整えたい
75	上級が早く取得できるように、してほしい
76	基礎研修を受講する方は一定数いるが、スーパービジョンの受講につながる方が少ない。認定社会福祉士を目指そうという方がそこまで多くないのが現状。社会福祉士を取得したときにも、社会福祉士をとってどうなるのと言われたが、認定社会福祉士についても同じだと思う。認定社会福祉士の評価が高まるように、それぞれの認定社会福祉士もだが、会としても認知を高める活動が必要。実践力のある認定社会福祉士を育成しようとする、それなりの経験と研修等の受講が必要だとは思いますが、条件が厳しすぎると登録者が増えてこない。そのバランスの中でどのように制度を作っていくか、難しいところだと思う
77	教育関係者は確かに実践はしていないので難しいと理解して取得しましたが、今後検討を考えることが普及させる一つのポイントになるかもしれません

78	新規申請や更新申請要件のいずれにも当たりますが、仕組みを学校の先生方多く関わり作っているため、実践現場を離れた先生方が更新し続けられるような制度に偏っていると感じています。非言語の相談実践を組んで科学的に支援を行っていくことは十分理解しておりますが、支援のすべてを言語化させ評価しようとする仕組みに少し抵抗感があります。言語でディベートし説き伏せる教員もいらっしゃる、ソーシャルワークの本質を身に付けることとは別の領域に発展してしまいそうな危惧を感じています。今一度、ソーシャルワークは実践が第一で、離れた瞬間から支援技術や感覚が鈍っていくものと捉え、謙虚に現場の声に耳を傾ける姿勢も必要と感じています
79	1回目は比較的取りやすいと思う
80	もう少しハードルを下げないと難しいと思います
81	煩雑かつ時間を要し、ハードルが高い
82	申請が煩雑すぎ
83	単位認定の範囲に加えてほしいのは、専門職団体（県・国レベル）の理事や研修運営に関わる、講師を担うに対してもっと単位の評価をしてほしい
84	煩雑だとは思いますが、知識を幅広く深く学び、書類整理などは経営や事務スキルに繋がる
85	社会福祉士としての実務（実践）を行っている会員は、何らかの研修（今のようないくらもかかるシステムの研修ではなく）を受けることで申請できるようにする
86	要件のハードルは緩和し、スーパービジョンは維持すべき
87	グループスーパービジョンの実施を必須にすることで、みんなで認定を目指すモチベーションにできる余地が生まれるのでは。もっとグループスーパービジョンの展開方法の敷居を下げることを検討すべきではないか
88	SVを「行う」ことについては国家公務員は兼業承認が難しく、実質知人に頼んで「無料」でやらせていただくしかないが、それには限界がある
89	申請要件ではないが、職能団体・機構などから認定取得者の給与水準を示すと認定取得の目標につながるのではないか
90	費用を安く、書類を簡易にしてほしい。高額のままならば、収入増の働きかけをしていただきたい
91	入力すると申請まで不足しているものがわかる、幅広い研修にでることができるようイメージ化できるプログラミングがあると申請しやすい
92	安易にコースを増やさず、通常コースカリキュラムをしっかり履修すべき
93	所属団体が2つあるとどちらに申請していいかわからない
94	更新がしやすい環境が大切ではないか。申請書類が多すぎる
95	研修の受講について、コロナの影響で、オンライン受講が可能な研修もありますが、認定要件を満たす研修は関東が多く、東北など遠方の人にとっては、交通費の支出が大変です
96	申請要件は理解できる。妥当ではないかと思う
97	ハードルは高いが、自己実践の省察は、とても良いと思う
98	研修を受講することにできれば今回のようにズームで研修を受けることができればいいと思います
99	申請要件がもう少しわかりやすく、質が低下しない程度で緩和されればと思います
100	実践している現場で、部下の指導や育成についても考慮してほしい
101	認定制度よりももっと社会福祉士の底辺向上を目指した運営をしてはどうかと思う。でなかったら社会福祉士の質の向上に繋がらないのではないかとと思う
102	社会福祉士としての活動なども考慮してほしい。県士会などのへの協力を続けている

2. 認定社会福祉士の更新の申請要件について

1	ハードルは高いが、すべて必要な内容だと思う
2	とにかく申請書類を減らして欲しい。申請書類が多すぎて嫌になります
3	やたら申請条件が厳しく手続きが余りにも複雑。ここまで複雑にする必要があるのか。既に新規で認定を取得済みなので、もう少しシンプルにしてほしい。実践者よりも研究者向きの更新条件制度の現状は大いに疑問である。福祉系教員なら更新条

	件にはまりやすいと思う。しかし、大部分の更新者が福祉現場の人間であり、研究発表をする機会はそう多くはない。実情に合っていない更新要件である
4	更新要件がわかりにくい。認証研修の機会がとても少ない。日常業務をしながら更新申請の要件を満たし、書類を整えるのはとても負担が大きいと感じている。更新すること自体、大変な労力を要する。資格の意味があるのか疑問に思う
5	他の更新がある専門職資格(臨床心理士等)のように、学会「参加」についてもポイント加算すべき。間口が狭すぎて職能団体や学会自体も尻すぼみ。特定層の自己満足に見える
6	スーパービジョンの要件を毎回求めるのか疑問がある
7	認証研修がとても少ない。受講できる研修が増えるようにして欲しい
8	ケースの提出が面倒
9	研修受講等の条件が厳しすぎる。特に研修実施団体の法人格等に制限があり、例えば、主催者がNPO法人や任意法人等の場合、研修は受講しているのに、認定されないのは納得がいかない。単位認定等で現場職よりも管理監督職の方がより更新がしにくい点も納得がいかない
10	実務が伴わなくなった方への対応・対策
11	単位数を1回更新した人からは少なくしてほしい
12	認証研修がもう少し種類があればと思う
13	更新要件を緩和する
14	実践、労働環境と求める内容がマッチしていない
15	認定社会福祉士でなければ業務はない
16	10年にして欲しい
17	費用かかりすぎ、更新しても資格手当は増えない。社会福祉士のみです
18	パッケージ研修で更新検討しやすくなった。遠隔地のためあきらめかけていたが
19	更新申請要件を緩和してほしい
20	もう少しわかりやすい説明が必要だと思う
21	煩雑すぎる、簡素化
22	複雑すぎてわからない
23	実践者でなくなってしまった今、スーパービジョンが受けられることを、知らなかった。むしろ、昨年は、「リアルタイムで実践者で無い人は、スーパービジョンが受けられない。」と、説明を受けたため、諦めていた
24	オンライン研修の取得を増やしてほしい
25	1単位＝15時間はハードルが高いと思う
26	更新せず上級社会福祉士への申請をできるようにする
27	制度ができた頃より、更新しやすくなったかとは思いますが
28	主任ケアマネジャーの更新研修やばあとなあの研修等、生涯学習的な研修も、自己研鑽ではあり、関連していると思うので、カウントしてもらえると、更新を諦める気持ちが少しは軽減する(少しはやっぱりチャレンジしようかなと思える)
29	広報を頑張ってほしい
30	もうすこし簡便だと助かる
31	制度内容を見直すべき
32	同上。努力が報われる社会をつくる
33	ジェネラリストと言いながら分野指定での研修実績を問われることが疑問である。機構の登録スーパーバイザーとしての自己研鑽のための研修が更新要件の単位として認められなかったことが疑問。後進の指導に当たる部分の実績がもっと評価されるべきだと考えている
34	課している研修の条件が高すぎる。研修時間や「SV受ける」などが、実践者としてのスキルがある人は、到底その時間を捻出できない。暇でスキルのない社会福祉士なら可能
35	要件のハードルが高い。一度取得したら更新しなくても良い制度にしてほしい
36	スーパービジョンが高い壁となっている
37	妥当ではないか
38	更新に必要な単位を取得できる研修を増やしていただきたいです

39	まだ挑戦中であるためわからない
40	認定精神保健福祉士も共通箇所とかあればよかった
41	SV を受けたくても、認定 SV が少ないので日程が合わない
42	分かりやすく説明する自信がない
43	実践を重視して欲しい
44	更新要件の文言がわかりにくく、理解をするまでに時間を要した。（要件ごとの意味）
45	スーパービジョン（受ける）を（する）と同等に見なしてほしい
46	「各分野の制度等の動向（認定を受けている分野に限る）」を受講するにも、なかなかありませんし、「履修を証明する書類」を発行してもらえるような機関が少なく、苦慮しています。日本社会福祉士会の e ラーニングで替えることはできないのでしょうか。もっと、「各分野の制度等の動向」の例示をお願いします
47	認証研修を受講しやすい環境（受講に遠方の旅費負担がある）
48	年齢が高くなるとスーパーバイザーが見つからず、スーパービジョンを受けることが一苦勞である。それに代わる仕組みを用意してほしい。例えば、スーパーバイザー経験で代用できるなど
49	研修が少なすぎるので、自分の分野や学びたい内容にかかわらず、単位のために受けることになる。分野によっては研修が見つからない。とにかく研修機会（認定研修）を増やして欲しい。認定社会福祉士に何を求めているのかがわからない
50	認定社会福祉士をとっても自身の未熟さかとは思いますが社会的には何も生かすことができませんでした。学びは継続していきたいですが、認証研修は遠方で、研修費も高額です。だんだん年を取っていくと世帯収入も少なくなるし、体力もなくなってくるし、親の介護など子育てとは違った忙しさも出てくるので、学びを優先することができなくなります。更新は、ケアマネの更新のように研修を受けて更新するなどもっと現実的にできるような方法だとありがたかったです
51	もう少し要件を緩和してほしい
52	社会福祉士の一般的な仕事では実績にならないこと
53	研修の必要な単位をとれる研修を増やして欲しい。またその研修を周知して欲しい 県の社会福祉士会での認定社会福祉士の更新等についての助言（研修の紹介、SV の紹介などがあれば更新できるかもしれません
54	書類と要件が複雑すぎて、わからない。単純明解な要件希望
55	上記①のシステムを上級認定社会福祉士に SV を受け、一定の研修を経たものとするのではどうでしょうか
56	試行研修を受けて、効率よく学べるため今後もやった方が良くと思う。単位を取るのが大変だった
57	相当の時間を要するため時間的に余裕がないときびしい
58	資質を求められているのは理解できるが、レポート（課題）が簡素化・分かりやすくなればと思います
59	まだ更新をしたことがないため、特に意見はありません
60	更新要件の見直しをしてほしい
61	更新研修ができたが、そのような更新できる複数のルートを作る
62	もっと身近な場所で認証を受けている研修が多くあるといい
63	更新要件が厳し過ぎると思います。子育てや介護等でプライベートの時間を確保できない方は、更新要件を満たすことは困難と思われます。例えば、認定取得時から継続して実務経験を積んでいたら、指定の更新研修を受講してレポートを提出したら更新とする等、簡素化できないでしょうか。ただし、上級取得は既存のままハードルを高くしておくべきだと思います
64	2 回目更新に更新時と同じ更新レポート、研修単位要件不要。同じことばかり、させられては更新者がいなくなりますよ
65	職場の管理者となれば、スーパーバイザーは行っているが、研修の機会よりも、地域の会議は増える。キャリアアップに応じた更新要件を期待したい。また費用が抑えられると良い
66	よりわかりやすくしてほしい

67	定められた実績のうち社会活動実績については、公的な機関や団体からの依頼でなくても、地域の相談会など活動しているものも認めていただきたいです。年間何回も参加して、地域の中で相談活動を行っているものも大切な社会活動だと思います。また、有名な方でないと公的機関や団体からの講師依頼などは来ないと思います
68	認定社会福祉士更新研修ができたが、どの研修を受講したらよいのか、もう少しわかりやすい資料が欲しかった。とくに「各分野の制度等の動向」はわかりにくかった
69	もう少し簡素化してもよい
70	妥当と思う
71	簡素化を図って欲しい
72	発表の部分が、ハードルが高い、したくても、救済をお願いしたい
73	なしにする
74	初回は特別研修の受講により取得したが、一緒に受講していた人のほとんどが更新できないだろうと言っていた。更新要件も緩和されてきて、更新のための特別研修も開催されるようになってきたが、費用面などまだまだ負担が大きいと思う。現状として、認定社会福祉士の登録者数が減っている状況にある。ということは、新たに取得する人よりも、更新しない人が多いということ。更新しなかった人が、なぜ更新しなかったかについて知る必要がある。私のように、取得したことが職場で評価されないと、更新に向けてのモチベーションが高まってこない
75	教育関係者は確かに実践はしていないので難しいと理解して取得しましたが、今後検討を考へることが普及させる一つのポイントになるかもしれません
76	手続きが煩雑、書類が多く、なかなか取り組むことができないでいます
77	最初に認定を受けた分野とは違う分野で認定更新したい人もいると思うので、そういう場合の要件が明示されているといいのではないかと思います
78	単位取得の研修が少ない。もう少し研修を増やすか、認定研修の要件を緩和してほしい
79	更新の要件は、もう少し、取り組みやすい方法を希望します
80	もう少しハードを下げないと難しいと思います
81	煩雑かつ時間と費用がかかり、ハードルが高い
82	退職後も学びたい。社会福祉士会の研修等に関わって行きたいといった気持ちはあるが認定要件(実務経験・研修履修証明)が足りずに更新をあきらめました
83	更新の手続きをもう少し簡単に
84	単位認定の範囲に加えてほしいのは、専門職団体(県・国レベル)の理事や研修運営に関わる、講師を担うに対してもっと単位の評価をしてほしい
85	実務(実践)を行っている会員は、申請要件をゆるやかにする
86	レポート内容の簡略化
87	いまいち、更新に関する書類を見ても何が必要か理解に時間がかかる。これでは、更新をする人が減るのではないかと思います。とにかく複雑である。これがなんとかならないと更新者はごく一部の人になる
88	要件のハードルは緩和し、スーパービジョンは維持すべき
89	社会人大学院に通って卒業したのに、登録されてない科目がほとんどで、申請要件には役立たなかった。社会福祉学修士だけでは何が不足なのか
90	更新申請要件が分かりづらい。受講する研修を確認するだけで、気持ちがなえる。もっとシンプルにすべき。更新のための研修受講料が高い。受講時間も長い。魅力的な研修が少ない
91	更新したいですがスーパービジョン等を行うのが大変です。都会なら人数も多く良いかもしれませんが、田舎ではスーパービジョンを受けるのもとても大変です
92	グループスーパービジョンの実施を必須にすることで、みんなで認定を目指すモチベーションにできる余地が生まれるのでは。もっとグループスーパービジョンの展開方法の敷居を下げることを検討すべきではないか
93	SVの研修会などを増やしてほしい
94	費用を安く、書類を簡易にしてほしい。高額のままならば、収入増の働きかけをしていただきたい

95	期間を限定しない
96	後見人等受任を安易に相談援助業務と位置付けるべきではない
97	認定社会福祉士制度に求められた要件は、実践力を持っている社会福祉士の証明なので、厳しい条件は必要と思う。煩雑さの代わりに更新研修が始まったのは良いと思う
98	特になし
99	難しい
100	要件が多いと感じる。県の理事などでも申請をしていない状況から何とかすべきではないか
101	妥当ではないかと感じる
102	地域で何をしているか等を問われても、報告できない方が多いと考えます
103	WEB上でできるようになればと思う。用紙ごとに登録番号や認定番号書くのが手間である。書類が少なくなれば、更新しやすいと思う
104	更新研修への受講は今後もズームでの参加、これからもできればと思います
105	登録時は医療機関に勤務していたが退職後は医療現場ではない。そのために医療に関する研修機会もなく更新は難しいと判断。特に医療分野の認定社会福祉士が退職後そのまま医療分野として継続していくには現実と乖離してしまう。（現在はSSWとして勤務）
106	更新要件がもう少し緩和され、仕事をしながらでも対応できるようになりたいです
107	実習指導の証明の仕方など詳しく書かれていないので、カンで出すしかなかった。それでも通過しましたが、非常に不親切でわかりづらい説明だと思います。更新させたくないのか？と思う条件です。スーパービジョンを「する」は依頼がないと要件が満たせないのに、認定を取得する人が少ない中で、スーパービジョンの依頼が確実に来るかわからない。それによって更新が左右されるので、たまたまSV依頼があれば更新できるというのは不公平を感じます。そうまでして更新してもさしてメリットはないので、更新する労力をかけなくてもいいかと思い、更新しない人が増えていくのではないのでしょうか？レポートを書かせるのはいいと思います
108	実践している現場で、部下の指導や育成についても考慮してほしい
109	もっと更新しやすいシステムにしてほしい
110	申請要件の内容がわかりにくいいためもう少しわかりやすいマニュアルが欲しい
111	社会福祉士としての活動なども考慮してほしい。県士会などのへの協力を続けている
112	更新も必要だとは思いますが認証研修やSV（特にバイザー経験）等の要件や更新のための研修になかなか参加できないことも多く有効期間をもう少し長くしていただけるとありがたい
113	教員や職能団体の仕事も要件の中に入れて欲しい
114	手続きの煩雑さや要件の厳しさが課題だと思います。十分な社会的地位が確立できているとは言いきれない中、費用や手間をかけて更新し続けることに負担感を感じる取得者は多く、周囲に奨められないのが現状です。認定取得者の「数」を維持するための努力が必要だと思います
115	申請時の書類が多すぎる。Web上でデータのアップロード等ができる環境を整備して欲しい
116	とても大変で、費用も掛かるが、研修内容等レベルも高く、実際にその要件がある事で学ぶ機会も増えるため、自分としてはモチベーションを上げるきっかけになっている
117	ややこしい単位数や時間数などよくわからない。常時相談できる担当がいて、書類の不備を教えてほしい
118	仕組みや、要件を満たすための情報や研修などの充実
119	スーパーバイズはバイザーの力量にも左右されるのではないかと思います。これにかわる公平な要件があればよいと思いますが・・・
120	更新の手順や方法などがわかりにくく具体的な方法など情報が欲しかった
121	更新要件がわかりにくいです。更新研修などでの対応が一番わかりやすいのではないかと思います。専門分野を区切っているのも、異動や転職をするとその分野の更新ができにくくなります。地域共生社会や重層的支援体制整備が進んでいる昨今

	で、分野別にする意味があるのでしょうか。他分野に進んでも、いままでの社会福祉士としての経験が積算されていくので、分野を柔軟に考えていくことが必要なのではないでしょうか
122	SVの単位として認証されている研修が少なすぎる
123	更新研修を必須にしたほうが良いと思う
124	認定社会福祉士になるだけでもかなり高いハードルであり、現在の更新要件は、それ以上の高い要件がもとめられています。認定司法書士は更新手続きや有効期限などありません。この仕組みも参考とし、認定社会福祉士の更新手続きや有効期限など必要性を考慮いただければと考えます。知識の維持向上を求めるなら、独立型社会福祉士更新の仕組みを参考とした。講習受講等要件とすることでも可能ではないかと考えます。検討をお願いします
125	更新の申請要件を十分認識していない人が多いと思います。また、更新の申請要件も認識してもハードルが高いと感じている人が多いように思います
126	会の活動への協力（研修の講師やスタッフ）も要件に入れて欲しい
127	対象となる研修の偏在

3. 認定上級社会福祉士の申請要件について

1	申請していないので、分からない
2	上級には興味ない
3	大学教員や研究者のみを優遇し、現場軽視しているような設計だと感じる
4	要件がわかりづらい。わかりやすくして欲しい
5	条件が厳しすぎる、特に学会発表や研究論文発表等の機会は限りなく困難で、また現実対応ができない
6	考えていません
7	実践、労働環境と求める内容がマッチしていない
8	認定社会福祉士でなければ業務はない
9	わかりにくい
10	検討する気もおきない
11	具体的には、思い浮かばないですが、緩和してほしい
12	そもそも、認定“上級”社会福祉士という名称が良くない。アメリカのソーシャルワーカーの資格制度などを参考にして直訳しているのかもしれないが、「上から目線」と誤解を受けるのではないかと。イメージが悪すぎる
13	ハードルが高すぎて、自分の状況からして申請できる要件ではない
14	お金も時間もかかる仕組み。現場になじまないと思う
15	どのようにすればなれるのか、まだ理解が浅く、とりあえず認定の更新をつづけています
16	もはや、申請するのはどのような仕事をされていて、家のことを何もしないで済む方なのかなとまで思ってしまうほど。目指す意味が見出せない
17	広報を頑張ってほしい
18	もうすこし簡便だと助かる
19	登録者がいない制度はおかしいと思う。制度内容を見直すべき
20	求められている要件が、研究者に近い活動実績でないかと思う。高い実践力の証明となる認定制度だと思っていたが実際との乖離があるように思う
21	課されている条件が、実践者にとっては、論外。結局、暇な社会福祉士や、なんちゃって実践しかしていない教員などしか受けられない
22	スーパービジョンが高い壁となっている
23	非常に高いレベルを求めていると思う
24	教育関係者などは有利だが、現場だけの人にはハードル高すぎる
25	現在のところ興味がない
26	実践を重視して欲しい
27	認定上級社会福祉士は廃止すべき。必要ない
28	屋上屋の仕組みから、医師のようにそれぞれのスペシフィックな専門分野の認定資格に変容すべきと考える

29	現行要件に加えて、「修士」修了を必須とし、「所属する都道府県社会福祉士会が推薦する者」のほうが、社会的地位、認知、信頼度が高まるのではないのでしょうか。しかし、私にはハイレベルすぎて、力はおよびません
30	研究や学会発表の要件などハードルが高い。そもそもの研修がどこで受けられるかもわからない。臨床現場で働いていて 取得できる資格とは思えない
31	実践者としてやっていきたいので、要件を満たすことは最初から難しいです
32	分からない
33	行政機関の会計年度任用職員として働いていると、上級社会福祉士の申請要件を持つことができず、正規職員として働いている人だけしか得られない認定と感じています。しかし、要件緩和をするのが適切とも思えないので、現状維持しかないのかと思っています
34	新生要件が煩雑で分かりにくい。詳細を規定などで調べてはいるが、それぞれの解釈が理解しにくく、取得できるのかどうかを毎度質問しないとイケない状態である
35	上級を受けられる人は、いるのですか？
36	昨年新規登録したばかりのため、特に意見はありません
37	社会福祉士を基礎資格に上乗せの資格を上級の申請に結び付ける（こども家庭ソーシャルワーカーは単位数を免除するなど）
38	引き続き、上級取得は既存のままハードルを高くしておくべきだと思います
39	一定の職位や組織内、地域内のポジションにつかなければ実績として経験できないこともあるように思います。そのような立場になったときに申請できるものという感じがします
40	受ける予定がないので、よくわからない
41	地域づくり政策提言などハードルが高すぎて怖気づいてしまう
42	さらに簡素化する必要あり
43	更新回数によって異なることは理解できる。上級取得のための要件については、会員各自が自分で何を準備していくのかがわかりやすい支援が必要と思う。更新には解体新書があるが、上級にも手引書があると良い。現状、ホームページからの情報ではわかりにくいと思う点がある。認定会員のデータベース（会員専用のマイページ上で該当研修受講や学会発表などにチェックを入れていくと「上級申請できます」と表示されるとありがたい）に基づくヘルプデスクなどが望ましいと思う
44	とても、夢の夢
45	認定上級社会福祉士の申請要件を正確に把握していないが、認定社会福祉士を複数回更新、のような条件でないと、認定上級社会福祉士が増えていくという状況にはならないと思う
46	資格の取得方法が正直理解できておりません
47	もう少しハードルを下げないと難しいと思います
48	とてもハードルが高い
49	考えていない
50	わからない
51	これをするには一般の社会福祉士には要件ハードル高い上にそのメリットがわからない
52	わかりません
53	まだわからない
54	とにかく要件が面倒
55	グループスーパービジョンの実施を必須にすることで、みんなで認定を目指すモチベーションにできる余地が生まれるのでは。もっとグループスーパービジョンの展開方法の敷居を下げることを検討すべきではないか
56	費用を安く、書類を簡易にしてほしい。高額のままならば、収入増の働きかけをしていただきたい
57	実践力を評価してほしい
58	診療報酬や介護報酬で見返りがいないため上級までは受けないのではないかと考える
59	申請したことはないが、妥当ではないかと考える
60	一般的な仕事の上では、クリアできない要件と理解している

61	だれでも、申請へとチャレンジできる環境や雰囲気もあればと思います
62	実践している現場で、部下の指導や育成についても考慮してほしい
63	特にないが、限られた会員のみが該当する資格になりそうだ
64	臨床でキャリアを積んでいる社会福祉士を評価するべきだと思います
65	ハードルがさらに高くなっており、そこまでは受けなくてもよいかと考えてしまう
66	まだ調べていないので不明ですが、要件を満たすための情報と認証研修などの充実や告知をお願いできればと思います
67	認定を更新していないのでわかりません
68	ハードルが高い
69	申請できるころには年齢が高くなってしまわないかと思っています
70	上級までは必要ないと思う。上級ではなく、例えば、認定社会福祉士が特定の研修を修めた場合、後見開始の申立書の作成及び提出を業として行えるなど、業務拡張に繋がるような設計があればと思う事がある
71	認定上級社会福祉士の取得に必要な研修単位の科目群が、大学での講義なのか、e-ラーニングで受講可能なのか、どの研修が該当するのか分かりにくい。認定社会福祉士を3回以上更新した場合の認定上級社会福祉士取得に必要な研修単位がSVであるのは、分かりやすいことと、通常業務を行っている中において研修時間を確保する点では、調整しやすく、大変助かるものと考えています。教育研究実績についてはハードルが高いと感じており、現時点で上級を取得するのはかなり難しいと思います。しかしながら上級を取得するにはそれなりの研鑽が必要とも思います。ただし、上級を取得しても自己実現の達成のみで自己満足の域を脱しないとも思います。認定上級社会福祉士取得を目指すための動機付けと対価が見合うか分かりませんが、取得した場合は称賛に値すると思います

4. 「スーパービジョン」実績について（SV（受）、SV（する））

1	一番自信がない
2	毎年、受けています
3	内容が低い
4	スーパーバイザーから自分にあった助言を本当に受けることができるのか不透明。スーパーバイザーの人の資質・技術の質が不透明
5	受けるもするも実績はある
6	必要である。契約金額(3万円)は高いとは思わないが、年功序列で年収が上がる時代ではないためサラリーマンには厳しい
7	グループスーパービジョンが地域でもっと身近に普及できるように働きかけて欲しい
8	1単位で、最低限にすべき。受講の負担が大きい
9	したくても調整できない場合に、県士会が調整することを提案
10	自身がバイザーをしているので、更新要件の単位には実績がかなり反映している
11	必須
12	実践、労働環境と求める内容がマッチしていない
13	認定社会福祉士でなければ業務はない
14	適当なスーパーバイザーがいらないわかりにくい
15	スーパービジョンを行ったり、受けたりする体制を整備してほしい
16	基本的仕事上、後輩のスーパービジョンをしています。受ける立場だと、自分より経験年数ある人は地域にいません
17	もともと興味があり、長年かかわっている。申請や更新のためにSVを受けなければならないという態度で受けてくる人たちが、迷惑である
18	SVをすることが多く、受けることができない
19	どちらも実績がある
20	案件が予想されていたほどないので他の単位でカバーできないのか？
21	大切なことだと思う
22	今、スーパービジョンが受けられるよう、県社会福祉士会に申請し、自己チェックシートを提出したところ。今月中には事前面談まで進めてもらえる予定

23	土日で行えるスーパーバイザーを増やしてほしい
24	受ける はお金がかかる
25	更新要件のスーパービジョンを受けることが、なかなか難しいです。スーパーバイザーもしているため、府内の会のなかでは望ましくないようで(受けられず)、他でバイザーを探すのが大変です
26	土曜も仕事、日曜は1日がかかりで子どもの習い事の付き添いや介護もあり、夜間は子どもの世話があるため、受けることは実質難しいと感じている
27	継続してする・受ける、を続ける
28	時間の確保が難しい Zoomなどの活用を推奨することが取得者増加につながる
29	経験が少なくする方は自信がない。ピアやグループがひろまるとよい
30	費用負担軽減策
31	そんな時間はない。昔の集合 SV を復活してほしい
32	時間が取れない
33	6回は多すぎる。管理的な立場になれば、6回分も事例が準備できるか疑問
34	必要だとは思いますが、評価は難しい
35	継続希望。いいと思います
36	認定精神保健福祉士も共通箇所とかあればよかった
37	認定 SV が足りない。オンラインもあるが、Zoom 契約も高くなったし、自由に出来る環境に無くなりつつある
38	更新のバイザー登録者一定確保できたら自身はするは行わないつもりである
39	認定社会福祉士を目指す方以外のスーパービジョンも普及すると良い
40	①と同様に、臨床経験値が少ない、研修受講にウェイトが置かれている現況では、本来の SV (する) は難しいと考える。例えるならば、手術実績のない研究者が手術技術を解説するだけではなく、具体的技術を指導するという現実的ではない状況と考えている
41	「内輪のパーティゲーム」です。「裁判にもなった」ともおききましたが、その後、どうなったのでしょうか
42	認定社会福祉士として自身のスキルアップに必要と考えている
43	年齢が高くなるとスーパーバイザーを見つけることが一苦勞である
44	SV のマッチングの課題。費用や時間、記録などの課題がある
45	SV をずっと受けていくことは大切だと思いますが
46	必ずしもバイザー資格を有する人ばかりでは無いので、半年以内に完結出来る SVe 経験も可となることを望む
47	SV を自分自身の認定を受けている分野の人に依頼して受けたいと思っても、所属している県の社会福祉士会にはいないため、他分野の人に依頼するしかない状況を変えられないものかと思っています。また、スーパーバイザーになりたいと研修を希望しても、県の社会福祉士会の役員に気に入られないと受けさせてもらえない状況にあり、所属している県の社会福祉士会によって差がある状況を変えてもらえないかと思っています
48	受講費用の軽減ができませんでしょうか？
49	更新要件にスーパービジョンを受けることとされているが、意外とハードルが高い
50	スーパービジョンをする(バイザー)ことに自信がありません。速いペースでない研修の開催をお願いしたい
51	県内職能団体に人員が限られるためオンライン受講が可能なら全国統一的な登録制度し、ミクロ・メゾ・マクロ領域などバイザーの得意分野が明示されていると、バイザー側がバイザーを選択しやすくなる
52	スーパーバイザーがなかなか見つからず、受けるタイミングが難しい。スーパーバイザーを頼まれた事はないため、期限内に単位を取ることは困難
53	バイザーの機会に苦慮している
54	10名以上のバイザー担当、バイザー経験1回
55	認定に伴うSVを受ける場合は、大学教員又はそれに準ずる学識経験者にすべきだと思います。現行では、認定を取得するための「とりあえずSV」が可能であり、質が担保できないと思われます

56	スーパービジョンが機能していない。スーパーバイザー要件がおかしい。特に大阪、独自のルールが有りスーパーバイザーになれない
57	受けることは可能だが、することに関しては受講希望者が少ないため実施できないのではないかと危惧している
58	SV をするには、SV（受ける）で質の維持が望ましいことは理解するが、同年代ばかりの環境下での SV（受ける）で満たすこともどうかと思う。SV（受ける）を要件とされると、地方では、更新が非常に厳しい
59	いずれも受けられていません
60	受けたことしかないが、スーパーバイザーを探すのが大変だった
61	バイジーとして、スーパービジョンを受けてみると、自分の助けになることが分かるが、第一歩を踏み出せない人が多いと思う。バイジー経験をすることでバイザーをすることもできると思う
62	会員の中には社会福祉士がする SV と個人の活動における SV を混同している人もいる。実績については今のやり方でもよいが、内容についてはさらに周知とバイザーは研鑽していくことが求められる。県士会の中で SV について進めていく雰囲気づくりも必要
63	SV は大切で、研修体系の中で受講義務付けは大切なこと。できれば、バイジーの受講動機が高まればと思う。受け身のバイジーへの働きかけが必要と自認している
64	スーパービジョンを受ける機会をもっと広げてほしい
65	今後も必要と考える
66	本来であれば定期的にできる環境があればよいのかと思いますが、認定資格取得を通してスーパービジョンを受ける機会が増えれば、スーパービジョンの重要性を考える機会も増えるのかと思います
67	なんとか、クリアできそう
68	各県士会の中で、スーパービジョンを受けることができる体制が必要。ただ、ある程度ベテランの方が SV を受けるとなると（更新のためには必要な）、その方を SV できる能力のあるスーパーバイザーが必要。ベテランの方だと、認定社会福祉士自体を目指していない方もいるし、スーパーバイザーとしての登録もしていない方もおり、県士会内での課題である。①にも記入したように、SV を受けよう（認定社会福祉士を目指そう）という方が少ないと、県士会内での SV 実施体制も整っていない。また、スーパーバイザー認定研修の際にも指摘したが、認定社会福祉士としての登録ができないのも問題だと思う。規定の不備も指摘したが、修正されているのでしょうか。認定社会福祉士であることで、スーパーバイザーの登録要件を緩和すれば、スーパーバイザーも増えていく可能性があり、また、認定社会福祉士の更新について費用面を考えると、お金を払って単位を取得するのではなく、お金をもらって単位を取得できるようになる。認定社会福祉士更新に向けたハードルが少し下がるのではないかと。もちろん、先に記入したように、SV を受けようという人がたくさん出てくるのが前提ではあるが
69	SV については、認定を受ける人が少ない場合は担当を受け持つことが難しいと感じています。行える年と来ない年があり、各都道府県の方針で異なるとおもいますので、少し工夫して欲しいと感じます
70	必要であると思います
71	大切な要件だと思います
72	スーパービジョンのレベル感が大きく乖離しており、「やった」「やっていない」の世界になってきている節があります。支援の本質を突き詰められるような SV の実践が全国に広がることを望みます。一方で、スーパービジョンにだけ偏り過ぎる傾向も感じており、「自己研鑽＝SV を受けること」のみになってしまうことを危惧しております。ソーシャルワークは、やはり実践に同行する、見せる、体感させる、フィードバックするなどの OJT が第一であるように感じます
73	スーパービジョンは都道府県によって体制が異なり、受けたくても受けられない場合もあると思うので、課題だと思う
74	受けた方が居られない
75	SV（する）の実践について職場で行う経験も認めて欲しい
76	これからも可能な限り後輩の育成に協力したい

77	学ぶ機会がない
78	今のままでよい
79	もう少し会員全体で SV はしていけると良い。基本受けてみると効果ある。バイザーになって基本ができない人が多いことにも気がつく
80	スーパービジョンは重要と思う
81	主に受ける側ですが、スーパーバイザーが似たような固定した人ばかりになっており、社会福祉士会全体でオンラインでのスーパービジョンを勧めていただければと思う
82	維持すべき
83	グループスーパービジョンの実施を必須にすることで、みんなで認定を目指すモチベーションにできる余地が生まれるのでは。もっとグループスーパービジョンの展開方法の敷居を下げることを検討すべきではないか
84	スーパービジョンの契約を結ぶときに、バイザーが認定を目指している有無を確認して欲しい。また、日本社会や医療ソーシャル以外のスーパーバイザー契約をした場合は、そのバイザーに認定の相談に乗ってもらいたい
85	行うことは兼業承認の限界がある
86	受ける場合、各バイザーの力量の差が大きいのでグループでの実施も実績としてほしい。する場合もバイザーが複数名でグループ実施にしてはどうか
87	力量のある SV の方を見かけない
88	とても効果的なので多くの方に取り組んでほしい
89	これは素晴らしいことなので、是非とも必須でお願いしたい
90	なかなかつながりがないと頼むことが難しい
91	手続きをネット登録にしてほしい
92	この要件は、実践力をつけるうえで両方とも必要で、クライアントのウェルビーイングを高めることにつながる
93	育児中でもできる仕組み。勤務として扱ってもらえればできた
94	受けるのも、するものクリアしているが、もっと SV が一般的になるよう努力すべき
95	妥当と考える
96	限られた人な為、受けにくい
97	受けると、するがセットで良いと思う。受ける機会はあるても、する機会がない人には厳しいと思う
98	SV を受けるは可能ですが SV をするほうが希望者がいない場合は厳しいです
99	バイザー経験がないので更新要件を満たさない。身近なところで児童分野でのバイザーを探すことが難しい
100	行政組織にスーパービジョンがある場合はその SV も認めてほしい
101	スーパーバイザーも安全を確保しつつ、スーパービジョンが行えるように維持できればと思います
102	SV 契約を結びたいと考えていながら、県内でスーパーバイザー登録している方が少なく、WEB でも可能であるため県外のバイザーへのアクセスを試みようとしながらも、業務に追われてできずにいる状況。SV をコーディネートするシステムや県協会であっせんしているところもあるようなので、そのような仕組みがあるとアクセスしやすいと思います
103	スーパービジョンを「する」は依頼がないと要件が満たせないのに、認定を取得する人が少ない中で、スーパービジョンの依頼が確実に来るかわからない。それによって更新が左右されるので、たまたま SV 依頼があれば更新できるというのは不公平を感じます
104	実際におこなっているが、実践の証明の方法がない
105	2024 年に受講済
106	GSV も可能にいただいたので受のほうもしやすくなったと思うが、時間の確保が難しい
107	外せない条件だと思う
108	スーパービジョンを受ける経験はとても良かったが、スーパーバイザーが認定社会福祉士を持っていない方が多いように感じ、それでよいのか疑問を感じた

109	スーパーバイザーの育成や確保、認定更新・申請以外でもSVを活用、日常化していく
110	負担が大きい
111	SVを受けましたが、正直なところ、大変申し上げにくいのですが質の担保が必要だと思います。しかし、受ける立場からはなにも申せません。同じ人方から受ける必要もないのかなと思います。しかし、一度契約をしてしまうと、なかなか途中でお断りもできないのが実情です。契約の時の金額についても、不透明な部分がありましたが、またどこかで顔を合わせる可能性がある人なので、結局我慢をせざるを得ませんでした
112	何件か契約をお願いしたが全て断られた（県士会経由）。このような状況は極めて不公平である為、このような状況がまかり通るなら認定・更新条件から撤廃して欲しい
113	SV（受）。SVは自分が実践を続けるうえにおいて必ず必要。バイザーとともに振り返ることで見えないものが見えてくる
114	スーパービジョン実施のあり方は、相互の情報（意見）交換、勉強会を通しながら自己覚知することで、人から教えてもらうこと、教えること、相談業務での理解能力の向上、聞く力、話す力を引き延ばすことが目的の一つではないかと考えます。例えば、弁護士、医師、司法書士等、人との会話を通して、業務を遂行する生業の仕事での更新要件ではスーパービジョンはなっていないでしょう。この実績は更新要件というより、実務で身につけていく経験内容ではないでしょうか。そこに、お金の授受が発生する契約形態が本来の目的に合致するのでしょうか
115	認定社会福祉士を更新するためのスーパービジョンにおいて、スーパーバイザーがスーパーバイザーを指名することができる仕組みはとても有益だと思います
116	SV受とするのどちらかでも可として欲しい
117	業務以外で時間が取りにくくなっている

5. 認定の「手続き（認定申請・費用）」等について

1	費用については無駄な投資をしたと思っている
2	費用や申請書類は妥当だと思う
3	とにかく簡略化・低額化して欲しい
4	費用が安いと助かる
5	現状では費用は高すぎる。資格取得後、費用に見合った効果がない
6	オンライン申請を可能にしてほしい
7	紙ベースではなく、オンラインやwebで手続きできるようにして欲しい
8	減らせる書類は可能な限り減らし、電子申請を可能にする
9	更新研修、更新手続き費用ともに高額であり、目指すことができないという者が多い
10	安くしてほしい
11	裕福でないので安ければよりベター
12	安くする
13	実践、労働環境と求める内容がマッチしていない
14	認定社会福祉士になっても費用対効果が少ない
15	妥当見えない
16	高すぎる
17	ややこしいらしい。よく質問をうけるが、一人で説明を読んでも理解しにくいらしい。たずねられても答えないが
18	煩雑すぎる
19	9月申請なので、5年の期限は実質4年半となる。研修などの単位を取得することも大変である。ただ、スーパービジョン実績については、申請年度末に終了するものについては、次回の期間の単位として認めるというルールはとてもありがたい
20	申請手続きが煩雑、揃える資料が多い
21	煩雑

22	家計から捻出するのは大変だけれど、いずれは必ず自身のスキルとなると信じている
23	用意する書類は多く、時間はかかるし、お金もかかる
24	何が研修として認められるのか、分かりにくいです。認定の研修もまだまだ少なく、受けにくいです
25	手続きにかけた時間や費用と比較して、認知度が低すぎる
26	妥当
27	割高な印象
28	もうすこし簡便だと助かる
29	費用の無料化
30	理解のない会社では証明すら出し渋るところもあると思います
31	馬鹿みたいに高い。独立型は日々の時間を切り売りして身を削っているのに、なんで更新審査料だけで万の単位で取るのか
32	費用がかかるし、準備する書類が多く、煩雑である
33	費用負担は大きい
34	妥当と思うが、手続きは複雑。何が必要で何が足りないか分かりにくい。コンシェルジュのような人がいると良いが
35	全体的に取得までの経費を安くしてはどうか。結局お金を出し続けるとほかの国家資格の短期養成校に行けるくらいのお金を積むわけです。結局新設のこども SW の資格と同じくらい料金がかかります。給与が高くなっているわけでもないのに、5 年ごとにそのお金を出し続けるのはナンセンス。と思い、費用も時間もあまりかからないケアマネを取りました
36	社会福祉の現場は、決して収入レベルが高くはないので、子育て世代等の若い世代にとっては費用が高いと思う
37	申請で 1 万だが、要件を満たす研修の費用で 10 倍以上の費用が掛かっている。自分のための勉強なので惜しくは無いが、給与の安い時期の現場職員には辛いと思う
38	手続きはインターネットを使用し、これによる経費削減を考えて欲しい
39	申請（更新も含む。）の手続きが煩雑すぎます。提出する文書が多すぎます。特に、「職務経歴書」は、どこまで記載すべきか悩みます。もっと、簡便化とお願いします。「所属する都道府県社会福祉士会の推薦」のほうがよいのではないのでしょうか
40	量的に確かに多いと感じる一方で、「やったからこそ自分なりに成長したと実感できる重みが自身の価値を高めると思えるので、苦しい反面やりがいを感じている。費用についてはもっと高額でも問題なし
41	認定医療ソーシャルワーカールートの場合、ダブルで費用が掛かり経済的な負担が大変大きい
42	費用対効果がよくない
43	妥当だと思います
44	更新の場合、実務経験証明書は、新たな 5 年間のもののみ提出にしてほしい
45	とにかく手続きが複雑化が増していて、更新したいがわからない。何から準備してよいか、相談先も、分かりづらいです
46	内容がしっかりしていれば費用は高くても良いと思います。けれど今のシステムではこの費用の意味がよくわかりません
47	認定を取得するのに多くの費用が掛かるのは当然であると考えるが、取得後にそれが報われる制度設計が必要である。例えば認定社会福祉士を雇用し資格手当などを支給している場合の加算など
48	認定申請から登録完了まで同じような内容書類を何度か記入し提出した。国家資格証のオンライン化も図られるため、本手続きも氏名・資格登録年月日等の基本事項や研修修了証等はデータベース化のうえ提出不要とし、手続きの簡素化をはかるべき
49	今までの職場に証明書を書いてもらうため、菓子折りを持って頭を下げて行くことが、煩わしかった
50	かかりすぎと思う

51	もう少し安くなればと思うが、査読者の報酬等を考えるとやむを得ないかと思いま す
52	更新申請が9月なので、9月以降翌年3月までの研修単位を次回申請に含むように する。（現在はSVしか次回申請の単位とされていない）
53	複雑だとは思いますが。理解するまでに時間を要しました。申請費用は高額と思いま せんが、認定申請に至るまでの研修費等がトータルすると高額になってしまいます
54	なし
55	申請および登録に、要する費用を安価にできないか。審査は、オンラインでも可能 であり、少なくとも申請後の審査にかかるコストは減っているのではないかと
56	より簡易にしてほしい
57	妥当
58	申請のため準備する書類が煩雑すぎる
59	申請の簡素化、またはICTの活用による
60	費用は妥当と思う。手続きは③のとおり
61	必要な経費と思う
62	手続きが複雑で費用も高く感じます
63	なしにする
64	認定社会福祉士を取得することで、収入面がプラスになっている方がどれだけいる かはわからないが、費用面では負担はかなり大きい。私自身としては、結果として 自己研鑽として取得したという状態にとどまっている。 特別研修などを受講すると、その際に実践等をレポートとして提出してチェックを 受ける。その上で、認定申請の際に改めて実践について提出するのも負担である。 特別研修を経ないで認定申請する人は必要かもしれないが、特別研修などの受講を している人は免除されてもよいのではと思う
65	手続きの時期が、限られているため、自分の仕事の余裕がある時期に出来ず、機会 を逃すことがあるため、期間は自由に選択できると嬉しい
66	ZOOM研修ができるのがありがたいと思います
67	研修受講や認定試験などで評価されて、認定取得や更新ができると良いと思う。費 用負担は少し多いようにも思う
68	実務経験や発表経験などの要件をもう少しわかりやすいように記述してほしい
69	費用は妥当かと。それなりの費用を支払うことは必要
70	高い
71	高過ぎる
72	提出書類が少しでも減るとよいです
73	費用について福祉関係専門職の報酬は低く、定年退職後は更に収入減となる為に更 新をあきらめた
74	煩雑
75	今のままでよい
76	妥当
77	費用負担があまりかからない形が望ましいと思う
78	自身の更新にかかる費用、自治体等からの助成があるとよい
79	費用の減額
80	高い。コストについての説明が必要（納得感がない）
81	簡易にでき、費用も下げるべき
82	資格ビジネスになっていませんか
83	もっと安くしてほしい…。本当に高い。認定になったときに仕事が優先的にくる、 所得があがってから費用をあげてほしい
84	若手には高額だろうと思う
85	しかたないと思います
86	煩雑すぎるため、見直しが必要だと思う
87	適切
88	申請、登録費用が高いので安くする
89	費用は高いと感じる

90	手続き、費用は妥当な範囲だと思う
91	業務多忙により、手続きは、わかりやすく更新しやすいように、簡略化して頂きたい
92	高すぎる
93	申請の事務手続きは妥当だと思うが、煩雑。自分の実績を振り返るのが大変。実績に当てはめていくのが大変。該当するかどうかの判断が難しい。機構に判断してもらえると良いのだが。費用は妥当ではないかと考える
94	繁雑で難しく、それだけで、更新はしたくなくなる。費用は少し安くなればと思うが、システム維持や開発の為には、妥当だと思う
95	費用に関しては、質の低下の無い程度でのコストで対応していただければと思います
96	もっと手軽な手続きが出来たらと思います
97	費用に関しては特になし
98	審査・認定費用が高額だと思います。他の専門職と社会福祉士の平均収入を考慮して設定すべき
99	更新申請時に改めて事例を記載して審査を受けているが、それは申請段階でも必要なことなのかと疑問に感じた。（申請前のスーパービジョン、もしくは科目であるのであれば理解できるが。）
100	ややこしい単位数や時間数などよくわからない。常時相談できる担当がいて、書類の不備を教えてほしい
101	仕組みが少しわかりにくい
102	大きなコストがかかる
103	正直なところ、高いと感じています。多くの社会福祉士は、それだけの収入では、生活するのが大変だったりもするので、知り合いの中には「そこまでお金を出せない」というひともいました。常勤で働いていても、扶養家族がいて住宅ローンなどを抱えていると、数万円の出費でもきついという人は、一般の社会福祉法人には少なからずいると思います
104	単位申請の手続きが煩雑。多団体の研修で、ポイントが付与されているものはそのまま使えるようにしてほしい
105	手続きを簡単なものにして欲しい
106	費用は高いと言われる

6. 認定社会福祉士の活用、認定社会福祉士の評価の向上について

1	名乗ることか出来るだけなことがわかってしまったので、社会福祉士についても名刺に記載するのをやめることにしました。名乗らなくても、個人の实践で名前は通っていると思っているので
2	その場では褒められるが、持続性はない（認定を持っていたりも持っていなくてもあまり評価は変わらないような気がする）
3	評価の向上以前に、まず、一定の水準をもった認定社会福祉士を増やさないといけない
4	一会員が苦勞して取得しても、社会一般に全然、その存在が浸透していない
5	一般的には全く期待できない
6	児童家庭分野では、こども家庭ソーシャルワーカーが優遇されていくであろうため、こども家庭ソーシャルワーカーの取得なども更新要件に加えてはどうか
7	普及啓発が必要であり、政策に絡むなどが必要と思う
8	社会的に認知のある資格にして欲しい。例えば、介護報酬や診療報酬で評価されるように働きかけて欲しい
9	すぐには難しいとは思いますが、認定社会福祉士を持っていることが何かの要件となることを望む
10	報酬制度への位置づけ
11	各都道府県、各市町村、関係団体へも周知してほしい（活用方法について）
12	福祉職は、資格の有無が評価や待遇に左右されない業種だと思う。事実、他業種よりも地位や収入が平均以下なので評価や待遇にプラスになる要素がなければ厳しい
13	人事評価に反映

14	そもそも業務独占でもなく相談料も支払う概念が低い社会なので活用も向上も期待値は低い
15	名称独占で意味がない
16	見えない、クリアになってない
17	学んだことに見合った評価がほしい
18	社会的認知されておらず、組織名しか見ない
19	まだまだ。自己実現のため。挑戦することでとても勉強になり、個人的にはありがたい制度だと思っているが、向上心や職能団体の研修に興味を示さない多くの人には、縁遠いものらしい
20	期待できない
21	高齢福祉分野における地域包括支援センターなど、社会福祉士も一部で業務独占と言える状況がある。例えば、機能強化型地域包括支援センターなど、認定社会福祉士を配置すれば交付金が増えるというような仕組みがあれば、認定社会福祉士の認知度も上がるのではないだろうか
22	認定を取っても、特に役に立たない
23	必要
24	所属している組織から、客観的に評価される仕組みになってほしい
25	報酬に反映できるようにしてほしい
26	インセンティブ（診療報酬や介護報酬）に紐づけしないと増えないと思う
27	あまり期待していない。むしろ、認定をもたずに素晴らしい実践をされている方々がたくさんいるので、認定の意味があるのかと思う
28	業務独占になってほしい
29	看護師と比べて認知度が低い 認知度を上げる→各種学会などに参加しシンポジウムなどに認定社会福祉士が発言する機会や講演を行うなど他職種に認知してもらう必要がある
30	自己満足感はある
31	社会福祉士会がしっかりと厚生労働省などに働きかけるべきである
32	収入アップが確実となるようにしてほしいです。認定がいることでの事業所としてのメリットが見える化など
33	もっとハードルが低く、今の半分くらいの時間で取得できるようにすべき。周囲の認定社会福祉士は更新をしていない
34	診療報酬や介護報酬等の制度として位置づけの向上
35	どのように活躍すればよいのか分からない
36	社会福祉士会は評価の向上のための努力を何もしていない
37	社会福祉士会の役員、委員のほか、会から推薦を受け派遣される外部委員等について認定社会福祉士を優先するなど、インセンティブを考えてはいかがか？
38	いわゆる実力をつけなければ評価してもらえないでしょう
39	ここは重点的にやっていきたいです。協力します
40	課題が多いと思います
41	個人としては、実践の現場で、認定社会福祉士であると声高に言うのは、相手に委縮を与えてしまう場合もあると思います特段言うことはない。実践の中で評価していたければよいと思っている。しかしもっと大きな視点で言うなら、社会福祉士について解説できるコメンテーターのような認定者がTV等で広報するぐらいであると認知も広がるとは思う
42	認定を受けても何の変化も無い
43	行政や相談支援機関での配置が促進される必要があると思います
44	もっと活躍が見えるとよいと思う
45	加算等に反映されないと意味がない
46	まずは、社会福祉士そのものの活用が先。地域包括支援センター以外にも設置必須業務を増加することを目指すことが必要。これまでの要望活動に加え、有資格者と無資格者の利用者満足度調査等が必要ではないか。同時にそれらを指導する位置付けの認定社会福祉士が指導者としてそれぞれの職場にいるか。いないか、いる場合の部下である社会福祉士の評価との相関関係調査も行う方法もある

47	福祉事務所、社会福祉協議会、地域包括支援センター、基幹相談支援センター、後見支援センター、定着支援センター等の公的機関、児童養護施設、特別養護老人ホーム、救護施設等の社会福祉施設の必置要件にしていきたい。せめて、診療・介護報酬の加算対象にしていきたい
48	地域包括支援センター社会福祉士のように、どこかしの機関（例えば、重層事業による多機関協働センターなど）の配置基準に認定社会福祉士の必須配置で知名度を上げる
49	特にそのことを前面に出して業務依頼される場面は少ない現状に変化を感じない
50	各5領域に対して、認定社会福祉士の必要性を訴え、各制度で認定社会福祉士配置による加算が付けば、職場でも評価されると思う
51	社会福祉法人等の管理者の要件にしてほしい
52	勤務先の評価が特に低いように感じる。認定を取り、スキルを上げてでも全く評価にはつながらない。各福祉事業の加算等に繋がるように国への働きかけが必要ではないでしょうか
53	社会福祉士には資質向上の責務があることをもっと一般会員に周知を図る必要があると感じる。社会福祉士業界全体が、認定を取得することが当たり前と考える風土が作られることを希望する
54	社会福祉士としての活動（独立型・成年後見等）を広げるために取得したが、他の人にPRしたい資格になっていない。（取得のハードルが高すぎて、費用対効果が悪いいため、物好き、暇な人と思われたい）
55	よくわかりません
56	私の周囲では、社会福祉士会自体に入会したがない有資格者も多い。まずは福祉業界で、どれだけ社会福祉士が収入を得られる専門職としての地位を得られるかだと思う。基礎研修受講者の多くが「ばあとなあ」登録を目指す理由もそこにある。ケアマネのようにある意味「稼げる福祉職」にならないと、認定社会福祉士を取るメリットも感じにくいのではないかと
57	社会的認知が深まればとよく思っています
58	自身の努力して自身で評価の向上に努めるべきとおもっている
59	もっと社会に周知する努力が必要と考えます
60	社会に貢献した実績を長期間示し続ける必要がある
61	医療機関では、診療報酬算定に関わらなければ意味が、ない。残念
62	根拠ある研究能力、根拠のある関わりができる能力がなければ永久に評価は上がることはないでしょう。臨床心理等、精神医学の先生等の学会等で学ぶべきかと。日本はいつまでもクラフトマンシップなままのSWでよいのでしょうか
63	前述もしたが、国が定めた制度（介護保険制度や障害者総合支援法など）に基づく仕事に従事し、国が定めた国家資格を取得し、さらにはそれらをより良いものにするために大きな苦勞と時間とお金をかけた者に対して何の評価も国がしないのは絶対的に間違っている。また社会福祉士も取得しただけの者と一定の研鑽を行っている者（認定社会福祉士や生涯研修制度修了者、基礎研修修了者、職能団体等所属者）が同じ扱いなのも社会福祉士の価値が上がらない要因の一つである。自分のことを良く言うつもりではないが、福祉経営者で、認定社会福祉士を取得した者、社会福祉士を取得しただけの者、社会福祉士など何も所持していない者が同じ福祉経営を行ったとしても、すべて同じ報酬で事業を行わないといけなの現在の制度である。このような意識の低い制度で日本の社会福祉が発展するわけがない。国の意識が無さ過ぎると断言する
64	具体的にどういう機会に認定社会福祉士を活用していくことが望ましいのか、活用されているイメージを文書・イラスト・動画等で、行政機関や民間事業者、クライアント等へ周知していく。併せて認定社会福祉士の活用を実践している地域・職場等での好事例を集積しそれを広報していく。また社会福祉士が認定社会福祉士を取得することで地域・職場等での給与等のベースアップにつながり、研鑽の好循環が地域・職場・クライアントのより良い環境につながることを上記同様周知していく
65	認定社会福祉士の評価は、されないため虚しい。世の中の人に周知されていない。これは、何とかならないのかと思う
66	社会的な周知を図ってもらいたい

67	ほとんど評価されていない
68	認定社会福祉士の配置加算（介護報酬や診療報酬等、評価制度）認定社会福祉士でないといけない役割、認定社会福祉士であれば免除されるもの等、司法書士のように認定取得後にできる業務の幅が広がる等のメリットや効果が目に見えて分かるようになればいいと思います。（独立型要件、相談機関の受託 等）
69	医療機関に勤務していますが、看護師等と違い認定を取得しても全く評価されません。取得のための研修費用も全て自己負担、研修も自分の年休を使用しなければならない状況です。診療報酬に結びつかないため考慮できないと言われました。やむを得ないこととは思いますが、やはり社会福祉士の社会的な評価が低いと改めて感じました
70	認定社会福祉士の認知度が低いため活用方法が不明
71	PV を作成する。行政が行う審議会等委員に入れてもらうために、各行政機関にパンフなどを送り PR する。資格取得者の報酬をアップさせるよう国に働きかける
72	診療報酬・介護報酬や施設基準等に定められないと厳しいかと思います。例えば、回復期の3年以上の実務経験者等は認定社会福祉士にする、基幹地域包括支援センターには社会福祉士でなく認定社会福祉士にする、児相には認定社会福祉士を1名以上配置する、高齢者虐待防止を担う行政機関には認定社会福祉士を1名以上配置する等、明記されないと評価はあがりにくいかと思います。最初は努力義務でも明記されれば効果はあると思います
73	スーパーバイザー要件を見てもわかるように機構が認定社会福祉士を評価しおらず、認定社会福祉士になるメリット（基礎研修の講師要件ぐらい）がない
74	そもそも社会福祉士でなければできない業務というものが少ないので、認定をとっても意味がないという風潮がある。インセンティブもなく自身のためだけに認定を更新しているようなもの。社会的に社会福祉士や認定社会福祉士の地位の向上が求められるのではないか
75	第三者評価への位置づけや評価、国の施策への認定社会福祉士の活用の推奨
76	認定社会福祉士という資格の知名度が低く、持っていてもあまりメリットが感じられない
77	認定社会福祉士を要件にする業務が増えると嬉しい
78	まだまだ社会的な認知度が低いように感じます。所属機関の意識も高いとは言えず、集团的に啓蒙活動していかなければ、個人の啓蒙活動にも限りがあるように思います。客観的な能力評価の難しさもあり、どのように社会的な評価を向上させていけるのか、まだよくわかりません
79	評価されないと思う。世間は余り興味ないのでは？
80	世間一般の認知度を上げること、社会福祉士の中にも認定を取る意義を感じていない人が多い。何か目に見えるメリットがないと、申請する人が先細りすると思う
81	認知度を上げるために何が必要か、検討していく必要あり。また、社会福祉士の中でも、会に所属していないものと区別する方法として広げてほしい
82	社会福祉士資格と同様に、認定資格と業務のつながりが必須と考える。医療、介護保険、障害報酬などに資格が関わることで業界内の認識は必ず変わるし、受講動機にもつながる。虐待対応専門職チームがそうで、地域包括に配置された研修体系のない非会員の社会福祉士と、専門職チームで派遣される社会福祉士の力量差は明らか。その差が示されないため行政から「包括にも社会福祉士はいるので、弁護士だけの派遣をしてほしい」と言われてしまうことがある
83	自身のスキル向上につながればと考え取得しました。また、上司（理解を得られにくい）に対し、自身の努力を形であらわす一つの方法だと思い、取得しました
84	周知徹底してほしい
85	かなりの努力と時間を擁する認定社会福祉士取得がまだ自己満足の世界のように感じます。認定社会福祉士としての位置付けを強固なものにしてほしい。会として働きかけてほしい
86	介護報酬や障がい福祉サービスの報酬に反映
87	認定社会福祉士を取り、何が変わるのかがまだ十分普及していないと感じています。今後どのようにしていくのかがこれから大切なのだとも感じます
88	診療報酬上の位置づけなどなければ、報酬は上がることはないとおきらめています

89	認定社会福祉士がまだ一般化されていないと思うので、広報活動がいると思います
90	認定社会福祉士の会で、意見交換できると良いかと思います
91	福祉職採用をする自治体が増え、行政機関で勤務する社会福祉士が増えています が、一般の行政職員と同じ待遇のところが少ないのではないかと思います。 （私が勤務する自治体では、精神保健福祉士の採用枠は「技術職」で、「事務職」 の社会福祉士よりも基本給が高くなっています。）福祉職採用には年齢制限があ り、一定の年齢を超えると正規職員の採用募集に応募できないため、会計年度任用 職員という立場でしか働けず、知識や技術が向上しても給料は変わらないまま です。会計年度任用職員の場合も、社会福祉士も無資格者も給与は同じです。一番残 念なのは、正規職員でないと受けられない研修があることです。（子どもの虹研修 センターの研修は職場を通して申し込むシステムになっており、個人では申し込め ません。私の職場には会計年度任用職員の社会福祉士が5人おり、内4名は5年以 上勤務していますが、外部研修の受講は認められず、異動してきて1年目の正規職 員が受講しています。）認定社会福祉士となることで専門性の高さが認められ、正 規職員への道が開かれたり待遇が改善されるようになればと思います
92	もっと認知させるか、持っていることで事業所に加算がつくなど必要
93	認定社会福祉士の任用の機会が増えると良いと感じます
94	本当に必要なのか？と思います
95	社会への周知が必要
96	評価はともかく、活用の（名称を目にする）機会が増えると良いと思います
97	取得によって社会的評価や報酬が上がれば取得へのモチベーションは上がると思う
98	認知度がないと活動の場が広がらない
99	病院機能評価、保健所（医療分野）監査における、雇用主が雇っているかどうかの 評価をしてほしい
100	認定持っている人が講師できるとか、独立するとかもう少し取るための工夫が必要 だと思う
101	認定社会福祉士は実践力があり、実務を担ってきている者という評価を定着させ、 即戦力として認定社会福祉士があらゆる場面・領域で任用されるよう、職能団体が 働きかけるだけではなく、国の政策として打ち出すべきである
102	認知度や社会的地位、メリットがあまりない。またハードルが高い
103	その前に社会福祉士の地位向上
104	任用に向けて、行政への働きかけを強化してほしい。待遇向上につながる仕組みを 構築して欲しい。それらの好事例を示して欲しい。認定社会福祉士の集いを開催し て欲しい。認定社会福祉士の活躍を可視化して欲しい。認定社会福祉士の有用性 について研究成果を示して欲しい
105	介護報酬や診療報酬で加算を付けるなど、具体的な評価をしてもらいたい
106	取っても取らなくても評価が変わらないのであれば、苦勞して取ろうと思わない。 実際に経過措置期間中に取得したが、研修を受けて取ったプロセスは充実していた が、取得後に「取って良かった」と実感できたことは本当に1度もない
107	認定の人に優先的に基礎研修の講師を依頼してほしい。重鎮だからといって認定出 ない人が講師としてやっていることに納得がいかない
108	職能団体では認定にハードルが高いという声もある
109	実績と実力のある社会福祉士が積極的に申請して評価を上げるしかない
110	この点を一番必要と感じている。資格取得したメリットを感じられず、一緒に取得 した仲間もみな更新しなかった。せめて社会福祉士会の中では、認定社会福祉士を 取得している人が優先的に従事できる仕事や職責を考えてほしい
111	やはり認定されたことのメリットを、国レベルで取り組まないと、普及されないと 思う。とにかく高額を支払い、労力も要するので、認定者が稼げる仕組みが必須で す。様々な研修講師、養成校教員の要件にも入れるなども必要であると考え
112	認定を上手に活用している方のお話を聞く機会が欲しい。専門職として認定を取る ことに繋がる共通のラダー作りが必要
113	介護報酬で加算要件とするなど収益メリットがないと形骸化がすすむ
114	社会的理解と実績を得る必要がある

115	職能団体として、認定社会福祉士の独占業務が増えるよう、国に働きかけてほしい。今のままでは魅力を感じられない。各県士会の中での活用にとどまっている
116	以前勤務していた、特養など、社福の配置要件（必須）がないため、認定社福は評価向上よりも、自己成長のためであると考えていました。今から、評価が高まるよう実践したいと思います
117	もっと評価して欲しいと思う。地道にコツコツ活動しないと認定してもらえないので、実績も必要だがそのような方を見出してもらいたい。実績がよくわからないのに活躍しているような人より、認定を受けて活動している人を優先的に研修講師や会の役員などに入れてはどうか。会長とかも。単なる名誉的な認定では、受ける人は頭打ちでは？虐待対応委員会とかばあとなあとか、色々なブランチの役員にも適用してほしい。会長とか事務局の人脈で役員を固めるようになったら、新規会員になった人も辞めるでしょう。認定を受けるのが全てではないが、公平性を担保するための一つの要件にはなるのでは？
118	積極的に、認定社会福祉士の存在価値を高めることを行う
119	自分なりに、認定社会福祉士の良さを伝えていくが、自己満足の部分が多い
120	認定社会福祉士（児童分野）があるにもかかわらず、子ども・家庭ソーシャルワーカーの認定資格の創設を許してしまった認定機構や関係団体の政治力の無さに幻滅する。この問題をどう考えるのか公式見解を出してほしい。児童分野の認定社会福祉士を取得した人が馬鹿を見る状況になってしまっている。こんなことがあると誰も認定社会福祉士を取得しようとは思わない。上記と同じ問題で救急認定ソーシャルワーカーも同様。医療分野の認定社会福祉士があるのになぜ作った？それをなぜ反対できなかった？と疑問しかない
121	今後は認定社会福祉士に挑戦してくれる人が増えることを期待したい
122	認定社会福祉士であればより、様々な方から仕事の依頼が来るようになればと思います
123	評価してもらうためには活用の場の確保とそれにみあう実践が必要である。まだまだ、これからだと考える
124	制度の中に組み込んでほしい
125	評価の獲得や地位向上には「数」の力が必要、新規獲得だけでなく更新申請の負担を軽減して「維持」する努力を進めていただきたいです
126	先ずは、人数の確保を優先的に取り組む必要があると思われる。質の担保については現在開催されていないが、認定社会福祉士の質の担保としてのフォローアップ研修等で対応してはどうか
127	あまりにも知られておらず、費用面の負担もかかり、申請も難しいため、現状では広まるとは思えない。そのため、評価をされることも難しく、「持っているのはすごいね」と言われるだけのものになってしまっている。自分としては、学びを継続できるいい機会になっているが、他の職種の認定制度と比べても自己満足に終わっている状況と思われる
128	介護報酬への反映や情報発信（認知度向上）、認定社会福祉士としての実践事例（認定を受けていない社会福祉士との実践の違い）認定社会福祉士同士のネットワークなど
129	社会的に認定制度や社会福祉士の知名度をあげることが、評価の向上につながってくと思う
130	とにかく知名度がありません。個人の実践だけでは解決できないです。介護現場で介護保険前から知っているものとしては、かつて社会福祉士はそれなりに施設でも大切に扱われていた時期もあったように思いますが、ケアマネジャー（介護支援専門員）の登場によって、介護報酬につながるケアマネジャーよりも軽んじされるようになったと感じています。ソーシャルワーカーとしてのスキルも学びも社会福祉士としての経験があっても、法人によっては、社会福祉でなくても相談員はだれかいればよいと考えているところもあります。実際に職員募集の条件をみても、介護支援専門員の方が年収がよくなってきましたし、施設の生活相談員も、ケアマネジャー資格や介護福祉士やいまだに社会福祉主事任用資格でもよいとしている募集も少なくありません。そのような中で、認定社会福祉士といわれても、興味を示さない法人が存在することは容易く想像できます。社会福祉士が必須でなければいけな

	いという活躍の場所をきちんと作ることが必要だと思います。このことは、社会福祉士の報酬の向上にもつながると思います。報酬が上がらなければ、社会福祉士として仕事をしなくても、生活のためには目指せないという若い人が増えると思います。経済面を考えて、多くの若い学生は行政を目指していると大学の先生に伺ったことも何度かあります。認定社会福祉士も、社会福祉士も、このままでは制度として成り立たなくなるのではないかと危惧しています。最近の国家試験も大変簡単になっているとも耳にします。私は社会福祉士であることにこだわって、プライドをもって仕事をしてきたつもりです。認定社会福祉士の評価の向上の前に、社会福祉士そのものの評価の向上がなければ、議論は進まないのではないかとずっと感じています
131	専門職団体として、周知する広報をもっと充実できないものかと思う
132	田舎なので認定社会福祉士を知っている人が周りにいない
133	認定社会福祉士の要件には高い知識や技術が必要であるため、中核機関や地域包括支援センター、医療相談室の長や法人後見運営委員推薦、講師派遣の要件に認定社会福祉士を有する者が望ましいと定める等、業務と名称をある程度結びつけると認定社会福祉士を目指す人が増えるかもしれないと思います。また、後見業務を行っている場合、候補者依頼に対して認定社会福祉士を優先的に推薦することや受任件数がある一定を超える場合には認定社会福祉士であることが望ましい等、各都道府県社会福祉士会の実情に合わせて、ある程度の規定を設けることで、質の担保と収入が結びつくのではないかとともに思います。ただ、後見人等受任件数や独立型社会福祉士、スーパーバイザー、認定(上級)社会福祉士の選択においては、その個人の力量に応じて認められるものの、個人の裁量にも委ねられるようなバランスの良い制度設計を希望します
134	資格を取得しても認定を持っているから、評価される制度がない
135	制度開始当初は士会内での活用が期待されたが、有資格者数の拡大と活用は比例していない

7. その他のご意見・ご提案

1	認定社会福祉士制度の意義を立ち止まって考える時期だと思います
2	認定期間を5年間でなく、ある程度世の中に認定社会福祉士が増えるまでは期間を延長してはどうでしょうか
3	認定を取得したが意味がないと感じた
4	自分個人としては、認定社会福祉士を取得することがゴールになってしまった。だが、認定を取得しても、実利としてのメリットがない
5	資格制度を継続するなら、会員の側に立って検討すべきであると思う
6	名簿までは必要ないが、取得者の都道府県別、分野別の人数など、ホームページ上で公開すべき。当初見られた情報が非公開になっており不信感がある
7	登録者を増やす取り組みが必要だと思います
8	認定看護師などと比べても、知名度が低く、残念です
9	社会福祉を志したいという若い学生が増えるように、社会福祉士のキャリアデザインをもっと魅力的に社会に周知して欲しい
10	認定社会福祉士の魅力を向上してほしい
11	⑥にも準ずるが、メリットがないから増えないと思う。「医者・弁護士=収入がある」といった魅力は正直ない。認定は損得勘定を考えず、純粋に自身にとっての「資質向上の証明書」と考えて実務に取り組んでいます。※資格そのものの魅力で信頼関係が築けるようなケースはないので…
12	職場では資格取得以後何も研修を受けておらず、資格の意味がない。認定が自己満足でしかなく、やればやるほど費用がかかるだけで意味がない
13	業務だけでなく家庭の事や、家族のこともあるのに、正直、認定を受ける事がメリットではないように思う。もう少し、簡素化してほしい
14	特になし
15	更新手続きが細かすぎ。経験10年から30年実務経験のみでは、活かされず、しかも研修は、現場で常にしているためそれ以外に別機関の研修は、自腹は厳しい

16	現在認定心理士をめざして勉強をしているが、心理士と社会福祉士の「認定」の立場が違いすぎる。公認社会福祉士でもいいのではないかなと思う
17	事務局のみなさん、いつも大変お世話になっています。ありがとうございます
18	特になし
19	sw の収入が高ければ、SW を目指す人が増えると思う
20	SV の制度はとてもいい制度だと思う。もう少し安いとうれしいけれど・
21	本制度を無くしてもよいと思う。改善も期待できないと考える
22	非常に意味のある研修工程だと思います。技術向上による魅力発信と取得後効果（収入や業務メリット等）の具現化が必要だと思います。私も県内認定者が集まり何ができるか話し合う場を作りたいと思っています
23	子ども家庭ソーシャルワーカーの資格の事務局を受託しながら、認定社会福祉士の児童家庭分野も維持している、日本社会福祉士会は、自己矛盾している。資格がどんどんバラバラになっている
24	更新制度をやめてほしい
25	スーパービジョンの責任付与機能がなかば連座制となっており、スーパービジョンへの高い壁となっている
26	地味にコツコツ良い仕事している実力者は沢山いるはず。特に火中の栗を拾う人は目立たない事が多いが、そういう人にフォーカスする仕組みになってほしい。SW の力もないのにアピールする事に長けている人が世に出たりすると、全体をミスリードして評価が下がる事になりかねない。今の方向性は良いと思います。よろしくお願いします
27	認定精神保健福祉士も共通箇所とかあればよかった
28	認定を受けたことで、自分がモデルになることは意識しているし、それを基礎研などでも話をしている。が、やはり普及への意識までには届かない。逆にどうすれば広報になるのかを示して欲しい
29	コンパクトで掲示しやすい認定社会福祉士証みたいなものの開発
30	レポートが厳しすぎる、数人の優秀な友人が却下され取得できなかった
31	精神保健福祉士、公認心理師のほうが評価・重宝される社会を変えたいです。そのためには、「福祉」の本質」の議論から目をそむけず、真っ向から向き合わなければならいとおもっています。そうしなければ、「社会福祉士の固有性」は、いつまでたってもやむやとなったままです。必ず、確固たるものにしなければならいと思っています。しかし、私の力では、もうおよびません。しかし、少しでも、社会福祉士の地位の向上に貢献をしたいと思っています。一方で、認定社会福祉士制度には、失望しています。ご関係のみなさまは、心血をそそぎ、想像を絶するご努力、ご尽力をされているなか、批判を述べてしまい、申し訳ありませんでした。深く、お詫び申し上げます
32	職場での資格評価を高めるため、管理職に資格取得要件を設けることができればと思う
33	認定社会福祉士資格自体が、社会的に認知されず、職場組織における待遇等と関係がない。
34	とにかく認証研修の機会を増やして欲しい。研修を受けたくても、分野別の研修機会がほとんどないのは困る。全ての分野で全国から参加できるオンラインの研修機会の選択肢を増やした上、わかりやすい案内を行って欲しい。認定取得はできても、更新の難易度が高すぎる。（資格の創設時と比べると条件が緩和されたが…）分野追加や変更も（追加したい分野の研修が皆無であるため）できない。制度だけ用意されていても、実現する方法が用意されていない（あっても極狭ルート）絵に描いた餅である。認証されていない研修が（いくら受講しても）全く評価されない仕組み。認証研修が増やせないのであれば、既存の職能団体や関連団体の研修＋レポート等の方法で代替できる形を作りたい。（特に分野別）社会福祉関連学会、学術集会参加（発表以外）が評価されないのも不思議である。臨床家ではなく、研究者のための資格なのだろうかと感じることもある。社会福祉士は多様な働き方があるのだから、それぞれのルートにあった認定取得や更新の方法を用意するべきではないか
35	特にありません

36	こども家庭ソーシャルワーカー取得を、児童・家庭分野の認定社会福祉士が取得を考えている場合、何かしらのインセンティブがあると良いと思う
37	やりがい詐欺という言葉がコロナ禍で表面化し、わが身を振り返ります
38	日本の将来がどうなっていくかは多くの社会福祉士ならば当然知っていることとは思いますが、これらを鑑みると、莫大で無駄な社会保障費を削り、効果的な制度、国家福祉の実現をめざすためには、社会福祉士全体かつ認定社会福祉士の社会価値の向上が必須である
39	“認定”という名称が、一般的には「試験を受けなくても特別に認められた暫定的な資格」と理解される人もいるようで、逆の意味に誤解されたこともありました。医療職や司法職も含め、「認定」の意味や価値観を共有し、医療・福祉の経営者や地域住民に認知・評価してもらえるような取り組みや仕組みができれば、そのステータスや専門性の向上が進むのではないかと思います
40	社協退職後 SW から離れ大学で教育支援に携わり、現在は後見活動のみを継続。認定に関する諸手続きや費用対効果の点で十分なインセンティブを感じ辛い
41	認定社会福祉士取得までには相応の時間と費用がかかります。私の場合、月に 8 日ある公休の半分は自己研鑽に充てていました。それに見合った評価がされていないように思います
42	認定社会福祉士研修は対面研修で対応必要。Zoom ではピアスーパービジョンができない。認定者が増えませんか。
43	以前のように認定社会福祉士の人数や一覧をサイトから見られるようにしてほしい
44	氏名、所属機関の公表に抵抗があるため、次回の更新を悩んでいます
45	認定制度の定着に向けて活動されているみなさまへの敬意を表します。日本社会福祉士会と日本 MSW 協会の双方で認定制度に取り組んでいます。医療の現場では施設基準として社会福祉士の認知は進んでいるものの、まだまだ認定社会福祉士の認知は進んでいない印象です。同僚の中でも認知度が低いです。医療の中では、早期退院に向けた対応が評価される傾向にあります。内容的な評価軸が定まっていないため、関わることで在院日数がのびるなど、逆にマイナス評価につながる面もあり、入院医療の中での評価を引き上げることは難しいと感じています
46	急に特別更新研修とかでクリアできるようになって、それなりの評価が出来ているのでしょうか
47	お世話になっています。更新が出来ず、とても残念ですが、実践が必要なのも理解していますので、仕方がないことかもと感じています。ただ人数が増えていかなければ今後に影響するのでジレンマも感じています
48	認定社会福祉士をとり、認定医療ソーシャルワーカーをとり、スーパーバイザーに登録し後輩たちに講義や SV をしていますが、これらは、認定をとる前から当たり前にしてきたことであり、以前と自分自身は何も変わっていません。いつまでも学び続ける機会と目標（ノルマ）を提示いただけるのは、わかりやすい自分への励みになるので、もっと浸透して欲しいと思います
49	認定社会福祉士の人数を一定数保つことや、独立型社会福祉士の登録と認定社会福祉士を結びつけることが目的であれば、更新の申請要件のハードルを下げることや、認定社会福祉士を初級、中級、上級に細分化すること、認定上級社会福祉士の要件のハードルを下げること等、制度再構築の検討も必要かと思います。もしくは制度の周知をさらに充実させ、スーパービジョンの普及がさらに必要かと思います。そのためには、オンラインでのスーパービジョンやグループスーパービジョンについて利用しやすい仕組みにしていきたいと思います。ただ、質の担保が目的であれば、現在の制度設計でも良いと思います。その他、認定(上級)社会福祉士、スーパーバイザー、独立型社会福祉士、後見人等専門職、各機関の所属長といった職務と報酬・給与体系が関連付けられるような制度設計を希望します。また、認定社会福祉士の新規や更新申請に必要な単位として認められるスーパービジョンの他に、地域で活動する独立型や認定の社会福祉士がスーパーバイザーになるため、職場以外の地域で行われるスーパービジョンを実施しやすい仕組みができることを希望します
50	士会内にあっても認定取得に対するモチベーションは低く、非会員の場合、社福士の資格取得をもって、生涯、有資格者であることを、疑問を持たずに名乗り続けていることには疑問を持つ。そもそも一般的に社会全体において社会福祉士そのものの認知

	度は、決して高くはないだろうし、資格がなくても各相談業務を担える／担わざるを得ない、あたりから変革していかなければならないのではないかと
51	このようなアンケートを取ってくださったことに感謝します。ずっと言いたかったことを記載することができました。ありがとうございます。思慮が足りずに浅はかな回答や、生意気な回答をしてしまっている部分があると思います。社会福祉士の少しでもよい将来を考えての発言のつもりです。どうぞお許しいただきますようお願いいたします
52	自分の周囲では認定社会福祉士を目指すことは趣味活動の一環程度としか思われていない。理由としては、取得したところで職場内での地位や給与、賞与といった目に見える形でメリットが得られないからという意見が多数（自分もそう思う）。認定取得・更新に時間や労力、金銭を費やすよりも他の事にそれらを費やした方が自身の人生がより豊かになると考える人が多い。自分も認定と距離を置いて、別の事に時間などを費やした結果、年収も上がり、余暇時間も増えて、人生の豊かさが増した。今の世、給与や賞与といった形に反映されない（反映されにくい）資格というのは不要だと個人的には思っている
53	認定社会福祉士の取得者が少ないと感じるので、認定社会福祉士を目指す人を増やすにはどうするか？自己研鑽目的の意識が高い人は目指すと思われるが、収入やら職域拡大などのメリットがないと取得を目指す人が増えないのかも危惧しています。制度を持続可能性なものにするためにも、盛り上がることをできればと思います
54	私が知る限り、行政機関で勤務する社会福祉士が増えていく一方で、「社会福祉士」として仕事をするというよりも「公務員」として仕事をしている人が多いように感じます。公務員という地位に安住し、社会福祉士として自己研鑽し続ける必要があるという意識も持っていない印象です。もっと言えば、公務員になるための手段として（福祉職採用試験を受けられる）社会福祉士資格を取得したのではないかと勘繰ってしまいます。そういう状況も、社会・地域の中で社会福祉士の認知度や評価が上がらなかったり、「こども家庭福祉士」の国家資格化が議論される一因になっているのではないかと思います。社会福祉士を採用した自治体は、ただ採用するだけでなく、行政職とは別の、専門性に見合う給与体系を整備し、代わりに専門性の向上（職能団体に入会して研修やSVを受けるなど）を課すというくらいのことをしてほしいと思いますし、日本社会福祉士会から全国の自治体に対してそのようなことを求める働きかけをしていってはどうかと思います
55	そもそも社会福祉士があるのに認定を目指さないといけないという理由が分かりません。しかも費用が高い。個人的には、認定制度は必要じゃないと思っています
56	全体にハードルを下げてもっと増やすようにすることと並行して、任用要件に加えて報酬に反映させることが必要。あまりにも認定社会福祉士が知られていない
57	コロナによる延長措置はあったもののこの間、研修がなくまた私自身の研修意欲が半減していた事があり研修履修証明が単位期待に達しなかつたために更新が出来なかった事は大変残念です。また私自身、この間に定年退職を迎えた為に資格更新への意欲が薄くなり更新を「あきらめ」ました
58	更新研修などもふくめて、各地域（エリア）単位で実施することで、地元の認定取得者同士の交流ができる機会があるとよい。認定社会福祉士をとることで、何が変わるのかを、自己研鑽的要素だけではなく、社会に対して価値をアピールできる体制整備をぜひお願いしたい
59	子ども家庭ソーシャルワーカー、こどもアドボケートなどの講師は、児童家庭分野から講師を出し、社会福祉士会としてもバックアップするとか、講師要件に入れるとかしたらどうか
60	アンケート作成ありがとうございました。何かのデータで出ていたら申し訳ないが、効力停止や執行になった人の割合を知りたい。その割合や理由を精査しないと認定社会福祉士とは何？と永久に言われ続けると思う
61	面倒な手続きのわりにはメリットもないので、このまま抹消でもういいやと思ってしまいます
62	認定社会福祉士を取得しても、特に評価されないため、よほどモチベーションが無ければ更新しようと思えないのでは。更新のための研修費用も高く、お金と時間を掛けるだけの価値を感じられない。自己満足でしかない

63	認定社会福祉士を取得する過程で、学びはあり、その部分は気持ち満ちた感じがしました。しかし、自身の家族を支える一員として収入に結びつくことをのぞいても、その部分は、全くプラスにはならなかったです。時間とお金をかけてスキルをあげても、反映されなければ、この資格の魅力は低くなると感じました。同じお金と時間を費やすのなら、他の収入につながる資格を目指したくなります。逆に認定を取得すると月給が少しでも上がるとか、インセンティブが働きやすくなれば、取得を目指す人が増えると思います
64	私は更新期限が切れましたが、更新する予定はありません
65	高い費用を支払って認定社会福祉士にメリットが何もないです。特に認定社会福祉士だからといって評価をされることもなく、認定社会福祉士を更新していくメリットが感じられません。認定看護師みたいに保険請求等で評価されるようになれば変わるかもしれませんが、現状では費用対効果がみられません。そこを改善する必要があると思います
66	何かメリットがあると良い
67	認定社会福祉士、上級認定社会福祉士の制度は 将来的に必要な制度と思う
68	学びの内容は素晴らしいのは事実です。普及は必須です。だからこそ、認定者が認定されたことでのメリットを更に明確にしていきたい
69	①認定社会福祉士が有するものとされている「資質」や「能力」（前述の【参考】の規則等を参照）について、あなたは、認定を受ける前と現時点とを比較して、どの程度向上したと感じていますか。の質問は、認定を受ける前というのがいつなのか定義されていないため不適切ではないか？また、登録前に研修やSVの積み重ねで資質や能力を身につけた上で登録するから、前と後は変わらないと考える
70	ソーシャルワーク理論やスーパーバイザーなどにおいて適切な専門性を発揮できない社会福祉士の存在が資格の評価を下げる。認定社会福祉士は特に専門性の担保のためにも安易に認定すべきではないと思う
71	研修を受講して段階を経れば認定社会福祉士になれる状況とらないようにお願いしたい。その人の態度や仕事の仕方に問題があり長く一定の職場で働けない人が、認定社会福祉士の資格を取りたいがために研修やSVを受けていることがあり、そのような人の実践力をどのように評価するかであるが、部分は見えても全体は見えないので非常に難しいと思われる
72	認定社会福祉士を取ると、こんなにいいことがある、と言えるような仕掛けが欲しい。以前は、独立型の社会福祉士になるための要件であったと思うが、いつの間にか消えてしまった
73	特になし
74	認定研修に携わる事務局、講師先生が熱心で丁寧で、いつも感謝しておりました
75	認定社会福祉士の取得に、費用、時間をかけ、申請まで持ってきているのに、申請書類等で記載する内容が難解。現状、その労力と、評価や収入と結びついていないので、初めから目指さない、更新しないという考えになるのは理解ができる
76	社会福祉士の資質向上については、再度根本的に考え直す必要があると思われる。日本社会福祉士会の研究誌「社会福祉士」や学会発表はハードルが高すぎ、そのハードルは研究者、大学院生向きのもので、正直、現場の職員からすると内容と呼んでも現場に役立ち参考となることはほとんどない内容となっている。審査が厳しいようだが、何をを目指しているかわからず、現場感が全く見えないため、おそらくチャレンジする人も少ないと思われ、方向性もあっているのか。そうした声が上がっていないのであれば、とても問題と思われる（悔しいが精神保健福祉士協会の方が現場感が感じられる）。せっかくの認定社会福祉士も同じようにならないために、現場に役立ち、現場感にあふれ、多くの人が普通にチャレンジをしたくなるものになって欲しい。生意気をいいまして申し訳ありません
77	行政で上級資格が評価されない要因には社会福祉主事任用資格がないことも問題にされないこともある。行政の中でも資格保持が必要な枠組みを明示する
78	他の士業のように、ポスターやパンフレットを作成して、一般社会人にも認定社会福祉士の活動が認知されるようになっていければと思いました。独立もしやすいような環境が広がればと思いました

79	認定や更新を受けるハードルが高いが、報酬、待遇や仕事の依頼が増えるわけではないので、モチベーションを保ち続けるのが難しい
80	現状だと認定社会福祉士を目指す人は増えないと思います
81	研修を受けたくても仕事や家庭の事情、地域性等からなかなか参加が厳しい会員にとっては目指したいと思っても取りにくい資格だと思う。また、とった後のスキルアップを組織としてバックアップしていく体制も必要だと思う。（県士会としての役割になると思うが